

2007 年度実施
FD活動に関するヒアリング報告書

法政大学 FD 推進センター

目次

ご挨拶	1
ヒアリング実施組織一覧.....	2
事前アンケート	3
ヒアリング結果	9
問1 . 学生の大学や教職員に対する「ニーズ」を知るための組織的な取り組みをされていますか? ..	10
問2 . 教員と学生の「コミュニケーション」を図るための組織的な取り組みをされていますか?	12
問3 . 「学生による授業評価アンケート」の結果について、組織的に授業改善に利用していますか? 14	
問4 . 図書館が行っている「ゼミ授業」支援サービスを活用していますか?	16
問5 . 「新生の学力低下」を感じますか?	18
問6 . 習熟度別クラス編成について、実施していますか?	20
問7 . 2007 年度に導入される GPCA についてどういった参照情報が必要ですか?	22
問8 . 初年次教育についてどのようなことを実施していますか?	24
問9 . 初年次教育について誰が実施の主体（責任者）になっていますか?	26
問10 . 初年次教育について教員間でカリキュラム・教材等の情報は共有されていますか?	27
問11 . 初年次教育について欲しい情報、参加してみたい「企画」を記述してください。	28
問12 . 初年次教育を実施してみて、教員側・学生側で何か問題になった、あるいは問題が明らかになったことはありますか?	29
問13 . リメディアル教育についてどの教科について、実施していますか?	30
問14 . リメディアル教育についてどのような形態で実施していますか?	32
問15 . リメディアル教育について欲しい情報、参加してみたい「企画」を記述してください。	33
問16 . リメディアル教育を実施してみて、教員側・学生側で何か問題になった、あるいは問題が明らかになったことはありますか?	34
問17 . 学生への学習支援の一環として新生サポーター制度を活用していますか?	35
問18 . 学生への学習支援の一環として何か相談窓口を設置したり、組織的に対応したりしていますか?	36
問19 . 成績不振や学習意欲の問題から、休学・留年・退学の可能性がある学生に対して、個別に対応していますか?	38
問20 . オフィスアワーを実質化するための何か工夫を組織的に実施していますか?	40
問21 . 教員への教育支援として、授業改善につながるような支援として必要なものを具体的に記述してください。	42
問22 . F D推進センターの活動として、あるいは法政大学全体の「F D」として特に期待することやご意見・ご要望などを自由にお書きください。	44

ご挨拶

法政大学 FD 推進センター長

大沢 暁

本報告書は、2007年7月6日から2008年1月17日にかけて、研究科・専攻・学部・学科・運営協議会等の教学諸単位の協力を得て、FD推進センターが実施したFD活動に関するヒアリング調査を集計したものです。ヒアリングの目的は二つありました。一つ目は、学内におけるFD活動の点検と掘り起こしです。法政大学は、2003年11月、FD推進センターの前身ともいえる全学FD推進委員会を設置し、2005年4月、FD推進センターを設置しました。その間、教学諸単位において様々なFD活動が行われてきました。2007年4月から、大学院におけるFDが義務化され、2008年4月から、学部におけるFDが義務化されることを機に、法政大学におけるこれまでのFD活動を点検し、隠れたFD活動を掘り越すことを第一の目的としました。すぐれたFD活動の事例があれば、全学に知らせ、他の教学諸単位が効果的なFD活動を展開する参考となるでしょう。また、ヒアリングを介し、FD活動がまだまだ不十分であると認識されれば、今後FD活動を活性化する契機となるでしょう。また、FD活動を実施しているのに、それがFD活動であるという認識がない場合、それに気づけば、勇気付けられることでしょう。第二の目的は、FD活動に関して、教学の現場である研究科・専攻・学部・学科・運営協議会等とFD推進センターとの連携を密にすることです。そのため、各教学単位においてFDを担当しておられる先生方に「FD活動に関するヒアリング事前アンケート」への回答をお願いし、その後、先生方とFD推進センターのメンバー二人（原則、センター長もしくはプロジェクト・リーダーから1名、プロジェクト・メンバーから1名）とが、事前アンケートを元に聞き取り調査させていただきました。FD推進センターといたしましては、各教学単位においてFDを担当しておられる先生方と知己を得たこと、また各教学単位において実施されている興味深い活動を知ったことは、今後FD活動をご支援するうえで大きな財産となります。また、先生方におかれましては、研究科・専攻・学部・学科・運営協議会等におけるFD活動を展開する核となっただけのものご期待いたします。

さて、FD活動に関するヒアリングを以下の要領でまとめました。本報告書のほか、研究科・専攻・学部・学科・運営協議会等の個別のヒアリング集計も整理いたします。本報告書をご覧になって、興味をもたれた項目につきましては、当センターまでご連絡ください。さらに、FD推進センターがすぐれている、参考になると判断したFD活動一覧等も今後用意する予定です。

最後に、FD活動に関するヒアリングにご協力いただいた先生方に、篤く御礼申し上げます。本報告書が教学諸単位におけるFD活動を進めるうえでご利用いただければ、これにまさる喜びはありません。

FD ヒアリング実施組織一覧

学部・研究科	学科・専攻(1)	実施日	実施形態(2)
市ヶ谷地区教養教育運営協議会		2007/7/21	
現代福祉学部		2007/7/25	合同
人間社会研究科		2007/7/25	
国際文化学部		2007/7/26	合同
国際文化研究科		2007/7/26	
工学研究科	機械工学専攻	2007/7/27	合同
工学研究科	電気工学専攻	2007/7/27	
工学研究科	システム工学専攻(経営系)	2007/7/27	
工学研究科	システム工学専攻(システム制御系)	2007/7/27	
工学研究科	物質化学専攻	2007/7/27	
工学研究科	情報電子工学専攻	2007/7/27	
文学部	英文学科	2007/7/27	合同
人文科学研究科	英文学専攻	2007/7/27	
文学部	哲学科	2007/7/28	合同
人文科学研究科	哲学専攻	2007/7/28	
システムデザイン研究科		2007/7/30	
キャリアデザイン学部		2007/7/31	合同
経営学研究科	キャリアデザイン学専攻	2007/7/31	
文学部	心理学科	2007/8/1	合同
人文科学研究科	心理学専攻	2007/8/1	
人間環境学部		2007/8/1	合同
環境マネジメント研究科		2007/8/1	
文学部	史学科	2007/8/2	合同
人文科学研究科	日本史学専攻	2007/8/2	
デザイン工学部		2007/8/2	合同
工学研究科	建設工学専攻(建築学領域)	2007/8/2	
工学研究科	建設工学専攻(都市環境デザイン工学領域)	2007/8/2	
文学部	日本文学科	2007/8/3	
社会学研究科		2007/9/19	合同
政策科学研究科		2007/9/19	
社会学部		2007/9/24	
経営学部		2007/9/24	
経済学部		2007/9/26	合同
経済学研究科		2007/9/26	
情報科学部		2007/9/26	合同
情報科学研究科		2007/9/26	
I . M . 研究科	アカウンティング専攻	2007/9/27	
I . M . 研究科	I . M . 専攻	2007/9/28	
経営学研究科	経営学専攻	2007/10/11	
工学部	機械工学科	2007/10/12	合同
工学部	情報電気電子工学科	2007/10/12	
工学部	物質化学科	2007/10/16	
工学部	電子情報学科	2007/10/24	
工学部	経営工学科	2007/10/29	
工学部	建築学科	2007/11/5	合同
工学部	都市環境デザイン工学科	2007/11/5	
文学部	地理学科	2007/11/8	
工学部	システムデザイン学科	2007/11/9	
法学部		2007/12/11	合同
法学研究科		2007/12/11	
政治学研究科		2007/12/17	
人文科学研究科	日本文学専攻	2007/12/20	
工学部	生命機能学科	2007/12/26	
人文科学研究科	地理学専攻	2008/1/9	
法務研究科		2008/1/17	

1 : 同一学部で学科別に , 又は同一研究科で専攻別実施した場合のみ , 学科 , 専攻名を記した。

2 : 複数組織が合同でヒアリングを受けた場合のみ , 「合同」と記した。

事前アンケート

2007年6月

各学部長 各位
大学院・専門職大学院各研究科長 各位
市ヶ谷地区教養教育運営協議会議長 殿
FD推進センターアドバイザー・ボード委員 各位

FD推進センター長
大沢 暁

FD活動に関するヒアリング、及び事前アンケートについて(お願い)

FD推進センターでは、2007年度からの「大学院のFD義務化」及び、ほぼ確実視されている2008年度からの「学部のFD義務化」への新しい取り組みの土台作りとして、当センターのプロジェクトメンバーが、各学部・研究科、市ヶ谷地区教養教育運営協議会から「FD活動」や「独自のFD推進」についてのご意見等を伺うヒアリングを行うことになりました。

実施の詳細は追ってご通知いたしますが、7月20(金)頃から複数回実施する予定です。

本ヒアリングは、個々の教員の枠を越えた各学部等の「組織的」な取り組みを推進するためのものです。これから各学部等のFDに関する「ニーズ」にお応えできるように努めて参りますので、ご多忙のこととは存じますが、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

また、ヒアリング時の資料とするため、下記要領にて、別紙アンケートにご回答下さいますようお願い申し上げます。

記

1. ご回答についてお願い

- (1) ヒアリングは、組織としての各学部、研究科、市ヶ谷地区教養教育運営協議会単位(大学院は専攻単位も可)に対して行いますので、当該単位ごとにご回答ください。
- (2) 2006年度末の学部長会議にて、各学部等にFDについて検討・実施を行う委員会等の組織を設置するようにお願いしております。本ヒアリングおよびアンケートは、そのFD組織の代表者あるいはFD実施の取りまとめをご担当いただく教員の方がご記入ください。
- (3) できるだけ具体的な事項をご記入ください。
- (4) 「FD」に関連する情報は、当センターHP (<http://www.hosei.ac.jp/fd/>)、及び「法政大学FDハンドブック」等をご参照ください。

2. ご返却方法

- (1) ご返却先：学務部学務課 FD推進センター担当(学内メール便等をご利用ください。)
- (2) ご返却期限：2007年7月6日(金)

3. お問い合わせ先

学務部学務課 FD推進センター担当(椎木) E-mail: fd-jimu@hosei.ac.jp
TEL: 03-3264-4285(内線 81-4285) FAX: 03-3264-4123(内線 81-4123)

以上

FD活動に関するヒアリング事前アンケート

- ・ご回答組織名_____ ・ヒアリング参加希望人数_____人
- ・ヒアリングご担当者

お名前_____学内TEL_____e-mail_____

あなたの所属する学部・大学院等において、

問1．学生の大学や教職員に対する「ニーズ」を知るための組織的な取り組みをされていますか？

具体的な取り組みや現在の検討内容

問2．教員と学生の「コミュニケーション」を図るための組織的な取り組みをされていますか？

具体的な取り組みや現在の検討内容

問3．「学生による授業評価アンケート」の結果について、組織的に授業改善に利用していますか？

具体的な取り組みや現在の検討内容

問4．図書館が行っている「ゼミ授業」支援サービスを活用していますか？

具体的な活用方法や現在の検討内容

問5．「新入生の学力低下」を感じますか？

具体的な点

問6．習熟度別クラス編成について、実施していますか？

具体的な内容

問7 2007年度からの全学的なGPA(Grade Point Average:FDハンドブック p.33参照)の導入に伴い、GPCA(Grade Point Class Average : GPCAの運用案参照)の運用に関する検討が始まっています。どういった参照情報(例えば、学科単位でGPCAを集計したい、受講生の人数でGPCAを集計したい等:GPCAの運用案参照)が必要ですか？

必要な参照情報

以下の問8～問12は、「初年次教育」への取り組みに関する質問です。ここでいう「初年次教育」とは、「高校生を円滑に大学生に移行させること」を教育目標にしたものであって、「専門知識をわかりやすく一年生に教えること」「専門への導入」が主ではありません。もちろん、すべての1年生向けの科目で「初年次教育的要素」を含めることは可能です(例えば、レポートの書き方について指南するなどはよく行われています)。

問 8 . どのようなことを実施していますか？

具体的な実施内容

問 9 . 誰が実施の主体（責任者）になっていますか？

問 1 0 . 教員間でカリキュラム・教材等の情報は共有されていますか？

問 1 1 . 「初年次教育について」欲しい情報、参加してみたい「企画」を記述してください。

具体的な内容

問 1 2 . 初年次教育を実施してみて、教員側・学生側で何か問題になった、あるいは問題が明らかになったことはありますか？

具体的な内容

以下の問 1 3 ~ 問 1 6 は、「リメディアル教育」への取り組みに関する質問です。ここでいう「リメディアル教育」とは、大学での教育を成立させるために、学力が高校卒業程度の一定の水準に達しない場合の補習教育のことです。

問 1 3 . どの教科について、実施していますか？

問 1 4 . どのような形態で実施していますか？

具体的な実施内容

問 1 5 . 「リメディアル教育」について、欲しい情報、参加してみたい「企画」を記述してください。

具体的な内容

問 1 6 . 「リメディアル教育」を実施してみて、教員側・学生側で何か問題になった、あるいは問題が明らかになったことはありますか？

具体的な内容

以下の問17～問21は、「FD」の今後の展開に関連する質問です。各質問項目に対する意見でもけっこうですので、お答えください。

問17．学生への学習支援の一環として、「新入生サポーター制度」を活用していますか？ここでいう「新入生サポーター制度」とは、学部1年生や編入生の学生が大学生活を送る上でわからないことや困っていることがあった時に、自分の経験に基づいて一緒に考えたり、不安に思っていることに耳を傾けたり、時にはアドバイスしてそれらを和らげるお手伝いをする、「在校生」によるサポートシステムのことです。

具体的な内容

問18．学生への学習支援の一環として、何か相談窓口を設置したり、組織的に対応したりしていますか？

具体的な内容

問19．成績不振や学習意欲の問題から、休学・留年・退学の可能性がある学生に対して、個別に対応していますか？

具体的な内容

問20．「オフィスアワー」を実質化するための何か工夫を組織的に実施していますか？ここでいう「オフィスアワー」とは、授業、自習中あるいは実験レポート作成時などに生じた勉学上の疑問・質問、学期初めの科目履修に関する事柄、就職や進学、進路選択上の相談、その他大学生活中に起こったさまざまな問題などについて、教員が余裕をもって学生諸君と面談し、相談に答えるための時間帯のことです（FDハンドブック pp.29-30 参照）。

具体的な実施内容

問21．教員への教育支援として、授業改善につながるような支援として必要なものを具体的に記述してください。

具体的な内容

問22．「FD推進センター」の活動として、あるいは法政大学全体の「FD」として特に期待することやご意見・ご要望などを自由にお書きください。

< ご回答ありがとうございました >

<メモ>

ヒアリング結果

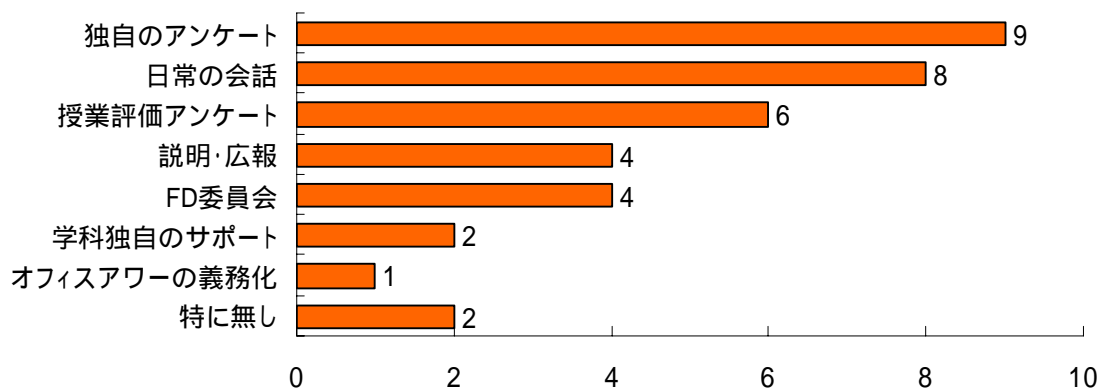
* 集計について *

- 各教学単位の回答が複数の項目にまたがる場合があります。よって、各項目の度数と教学単位数は異なる場合があります。
- 回答がある場合に全て分類したため除外したものはありません。問9～12については、無回答の場合は*で記してあります。
- 回答理由が特にない場合は教学単位数のみ書いてあります。
- 回答が「特になし」の場合には、その理由を書いています。それ以外の回答については、現在行っている活動、問題点を挙げています。
- 問1つにつき、2ページを基本としていますが、1ページにまとめているところもあります。
- 集計はアンケートだけでなく、ヒアリングも含めて行いました。

問1．学生の大学や教職員に対する「ニーズ」を知るための組織的な取り組みをされていますか？
具体的な取り組みや現在の検討内容

学部

問1（学部）



独自のアンケート

- ・ 上手く処理できなかったために活かされなかった（文学部哲学科）
- ・ アンケートの回答等を edu2007 を使って学生に公開している（工学部機械工学科）
- ・ 授業科目中心のアンケートであるため学生の「ニーズ」を把握できない（工学部情報電気電子工学科）
- ・ 特定の学年を対象としたアンケートを実施している（現代福祉学部，人間環境学部，情報科学部，市ヶ谷地区教養教育運営協議会，キャリアデザイン学部）
- ・ 特定の教員で行う場合がある（経済学部）

日常の会話

- ・ ゼミや日常の授業，コンパなどで学生の声を拾い上げる（文学部日本文学科，経済学部，社会学部，工学部電子情報学科，経営工学科，デザイン工学部）
- ・ 「目安箱」を設置している（工学部都市環境デザイン工学科）
- ・ 「Q&A シート」という用紙に記入し，教員が回答して掲示板に貼り付ける（国際文化学部）

授業評価アンケート

- ・ 結果を他の教員が見ることができないため，学科内の状況すら把握できない（文学部英文学科）
- ・ 個別教員レベルでは行っているが組織的には行っていない（工学部建築学科，物質化学科）
- ・ 実質的な効果については疑問が残り，議論だけで終わった感じがする（文学部地理学科）
- ・ 授業改善に役立っている（工学部生命機能学科，経営学部）

説明・広報

- ・ 学生が既存の制度を理解していないため，広報活動を行う（文学部英文学科）
- ・ 新入生に対するガイダンスやオリエンテーションを行う（情報科学部，文学部史学科）
- ・ 5月に面談を行っている（文学部史学科）

FD委員会

- ・ 本格的な活動はこれからである（文学部哲学科，市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ 研修，合宿等のFDの活動がある（国際文化学部，キャリアデザイン学部）

学科独自のサポート

- ・ 学生によるピア・サポーターを組織し，様々な要望を集約し教員に伝える（文学部心理学科）
- ・ キャリアアドバイザー（職員）が学生の相談を通じてニーズをすくい上げる（キャリアデザイン学部）

オフィスアワーの義務化

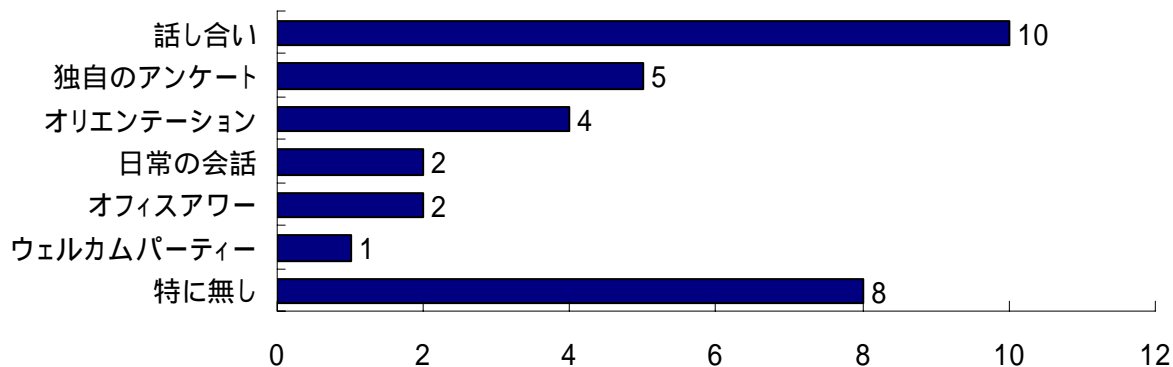
- ・ 全教員のオフィスアワーを義務化している (国際文化学部)

特になし

- ・ 最近では、ロースクール設置でバタバタして行っていない (法学部)
- ・ 組織的な取り組みは行っていない (工学部システムデザイン学科)

大学院

問1 (大学院)



話し合い

- ・ 各コースで集約された後コース代表者会議において議論されている (経営学研究科経営学専攻)
- ・ 懇談会やカンファレンスを行う (経営学研究科キャリアデザイン学専攻, 人文科学研究科心理学専攻, システムデザイン研究科システムデザイン専攻, 経済学研究科経済学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 人文科学研究科地理学専攻, I.M.研究科アカウンティング専攻)
- ・ 教室会議等で日常的に意見交換する (工学研究科建設工学専攻)
- ・ 教授会で学生からの意見について常に議論している (環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻)

独自のアンケート

- ・ 適宜授業アンケートを行っている (国際文化研究科国際文化専攻, 人文科学研究科哲学専攻, I.M.研究科 I.M. 専攻, 社会学研究科社会学専攻)
- ・ FD に先行して授業評価アンケートを実施している (政策科学研究科政策科学専攻)

オリエンテーション

- ・ 新入生ガイダンスを行っている (政治学研究科政治学専攻, 人文科学研究科日本文学専攻, 情報科学研究科情報科学専攻)
- ・ 大学院進学希望者に対して指導説明会を行っている (工学研究科情報電子工学専攻)

日常の会話

- ・ ゼミや研究室で日常的に学生と接触して要望を聞く (工学研究科電気工学専攻, I.M.研究科 I.M. 専攻)

オフィスアワー

- ・ オフィスアワーは全教員が明示している (人文科学研究科日本史学専攻, 法務研究科法務専攻)

ウェルカムパーティー

- ・ 学生, 教員とも出席率が高い (人文科学研究科英文学専攻)

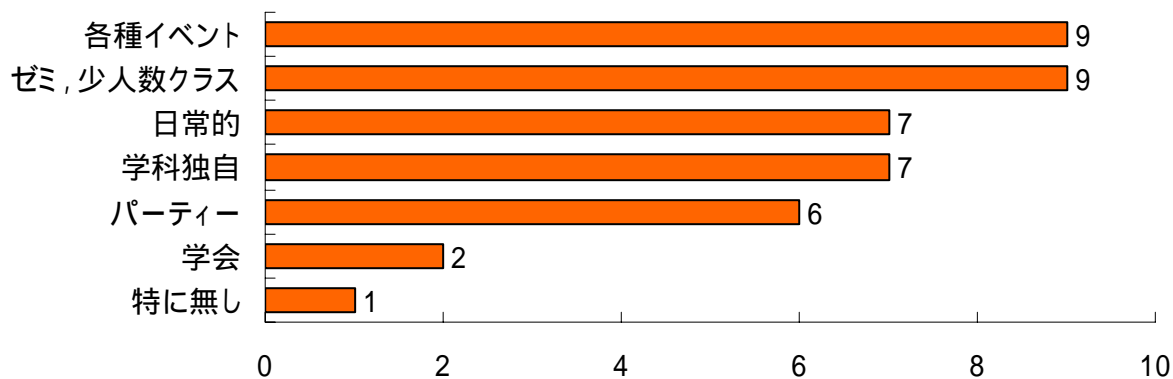
特になし

- ・ 授業評価アンケートは大学院には馴染まない質問が多く意味も分かりにくい (工学研究科機械工学専攻, 建設工学専攻 (都市環境デザイン工学領域), システム工学専攻 (経営系), システム工学専攻 (システム制御系), 物質化学専攻)
- ・ 組織的な取り組みはない (法学研究科法律学専攻, 人間社会研究科)
- ・ FD 委員会を立ち上げることを決めたが具体的な内容は検討していない (人文科学研究科日本文学専攻)

問2 . 教員と学生の「コミュニケーション」を図るための組織的な取り組みをされていますか？
 具体的な取り組みや現在の検討内容

学部

問2 (学部)



各種イベント

- ・ 定期的に合宿, コンパを実施している (文学部哲学科, 文学部日本文学科, 文学部地理学科, 工学部システムデザイン学科)
- ・ バスツアーを行い交流を深めている (文学部日本文学科)
- ・ ウォークラリーという歓迎会を兼ねたイベントがある (工学部建築学科)
- ・ スポーツ大会, スポーツフェスティバルを行っている (国際文化学部, 経済学部)
- ・ 全員で六大学野球観戦に行く (工学部システムデザイン学科)

ゼミ, 少人数クラス

- ・ 導入ゼミや基礎ゼミ, 専門ゼミが設置されている (文学部哲学科, 工学部機械工学科, 建築学科, システムデザイン学科, 経営学部, 現代福祉学部)
- ・ 少人数教育を行っている (工学部機械工学科, 情報電気電子工学科, 生命機能学科)

日常的

- ・ オフィスアワーを設け学生と会話する (文学部日本文学科, 工学部情報電気電子工学科, 国際文化学部, 工学部生命機能学科, 現代福祉学部)
- ・ メーリングリストがある (情報科学部)
- ・ 自習室や資料室を開放している (文学部心理学科)

学科独自

- ・ ピア・サポーターと教員との話し合いを行う (文学部心理学科)
- ・ 学科 (学部) 独自のHPを作成している (文学部心理学科, 社会学部)
- ・ 学生サポート委員会を設置している (キャリアデザイン学部)
- ・ 「学生と教員が話し合う会」で理解を深めた (キャリアデザイン学部)
- ・ 5月に1年生全員を対象に面接を行っている (文学部史学科)
- ・ 学生からの質問や意見に答えるボックスが用意しており, 回答する制度がある (人間環境学部)

パーティー

- ・ 新入生歓迎パーティーや卒業記念パーティー等のパーティーや会を行う (文学部日本文学科, 国際文化学部, 人間環境学部, 文学部英文学科, 工学部物質化学科)

学会

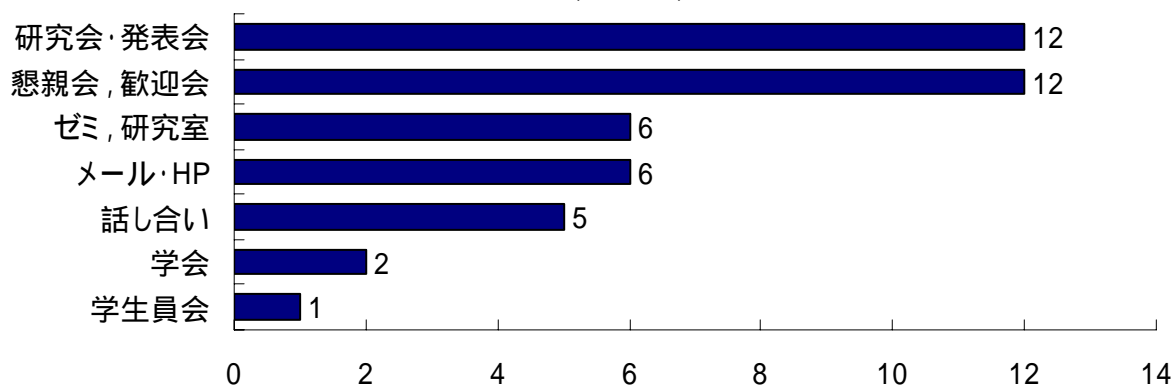
- ・ 学会を組織している (文学部英文学科, 心理学科)

特になし

- ・ 教員個人レベルではあるが、組織的には行っていない（市ヶ谷地区教養教育運営協議会）

大学院

問2（大学院）



研究会・発表会

- ・ 修論の発表会を行っている（経営学研究科経営学専攻，経営学研究科キャリアデザイン学専攻，建設工学専攻以外の工学研究科，経済学研究科経済学専攻）
- ・ 研究会で研究交流を行っている（政治学研究科政治学専攻，経営学研究科キャリアデザイン学専攻）
- ・ ロボコンを開催している（工学研究科システム工学専攻（システム制御系））

懇親会・歓迎会

- ・ 懇親会や新入生歓迎会を行っている（人文科学研究科哲学専攻，英文学専攻，建設工学専攻（建築学領域）以外の工学研究科，政策科学研究科政策科学専攻，人文科学研究科地理学専攻）
- ・ 新入生ガイダンスを行っている（人文科学研究科日本文学専攻）

ゼミ・研究室

- ・ 合宿やセミナー・勉強会を行っている（経営学研究科経営学専攻，人文科学研究科哲学専攻，工学研究科建設工学専攻（都市環境デザイン工学領域），人間社会研究科）
- ・ 研究室内で十分なコミュニケーションがとれている（工学研究科機械工学専攻）

メール・HP

- ・ メールングリストを作っている（工学研究科建設工学専攻（都市環境デザイン工学領域），（建築学領域，国際文化研究科国際文化専攻，人文科学研究科心理学専攻）
- ・ メールを通じて院生からの要望・相談に答えられる体制を整えている（政策科学研究科政策科学専攻）
- ・ 研究科独自のHPが構築されている（環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻）

話し合い

- ・ 非公式の話し合いの場を随時設定している（法学研究科法律学専攻）
- ・ 院生代表と執行部との話し合いの場を設けている（社会学研究科社会学専攻）
- ・ オフィスアワーを設定している（人文科学研究科日本史学専攻，法務研究科法務専攻）
- ・ ヒアリングを行っている（I.M.研究科アカウントニング専攻）

学会

- ・ 学会を組織している（人文科学研究科英文学専攻，心理学専攻）

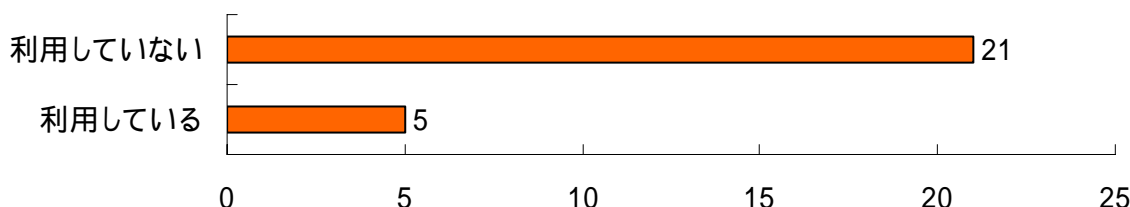
学生委員会

- ・ 学生委員会がコミュニケーションの活発化の役割を果たしている（I.M.研究科 .M.専攻）

問3.「学生による授業評価アンケート」の結果について、組織的に授業改善に利用していますか？
具体的な取り組みや現在の検討内容

学部

問3 (学部)



利用していない

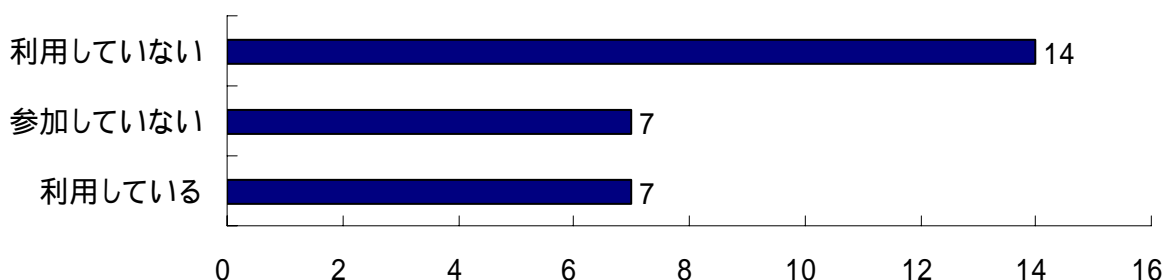
- ・ 組織的にはしていないが各教員レベルでは利用している（文学部哲学科，工学部機械工学科，情報電気電子工学科，国際文化学部，情報科学部，法学部，工学部システムデザイン学科，経営学部）
- ・ 組織的ではないが教員間では意見交換が行われている（文学部地理学科）
- ・ 大雑把すぎるので，どの分野に対してどのような回答が出ているのか等，詳しく把握したい（文学部史学科）
- ・ 学部全体の結果を学科単位で利用しにくい（文学部史学科）
- ・ 教員懇親会や・学生懇親会を実施し，今後検討していきたい（社会学部）
- ・ 「授業評価アンケート」を受け取った教員へのアンケートをFD推進センターでやってもらいたい（人間環境学科）
- ・ 学生数が少ないので個人情報が出ないように配慮する必要がある（現代福祉学部）
- ・ 新規の項目や学科独自のとりまとめなどを検討中である（文学部英文学科）
- ・ 学科内で話題になったことはない（工学部物質化学科）
- ・ クロス集計を取り入れるなど集計方法を工夫して欲しい（工学部経営工学科）
- ・ 組織的な利用はしていない（工学部建築学科，都市環境デザイン工学科，市ヶ谷地区教養教育運営協議会，経済学部）

利用している

- ・ 重要と思われる点については学科会議などで，教員相互に意見交換や，アドバイスを試みている（文学部日本文学科，工学部生命機能学科）
- ・ 各教員がアンケートデータについて気づいたことを文章化し，掲示板に貼り付けている（文学部心理学科）
- ・ 学部全体の平均値を教授会で公表し，教員各自がアンケート結果をFDに活かすよう促している（キャリアデザイン学部）
- ・ 少人数の科目や特殊性のある科目以外は全て実施している（デザイン工学部）

大学院

問3 (大学院)



利用していない

- ・ 組織的にはしていないが各教員レベルでは利用している（政治学研究科政治学専攻，工学研究科物質化学専攻，機械工学専攻，電気工学専攻，システム工学専攻（経営系），情報電子工学専攻，人間社会研究科）
- ・ 利用していないが懇談会で話題になることはある（システムデザイン研究科システムデザイン専攻）
- ・ 今後，組織的に利用していく方向ではある（環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻）
- ・ ある程度の人数（15名程度）が受講している科目のみ行っている（人文科学研究科日本文学専攻，日本史学専攻，地理学専攻）
- ・ 特に利用していない（経済学研究科経済学専攻，法学研究科法律学専攻）

参加していない

- ・ 「学生による授業評価アンケート」を行っていない（国際文化研究科国際文化専攻，人文科学研究科哲学専攻，英文学専攻，心理学専攻，工学研究科建設工学専攻（都市環境デザイン工学領域））
- ・ 独自のアンケートのみを行っている（社会学研究科社会学専攻）
- ・ 当初からFDアンケートを独自で行っている（政策科学研究科政策科学専攻）

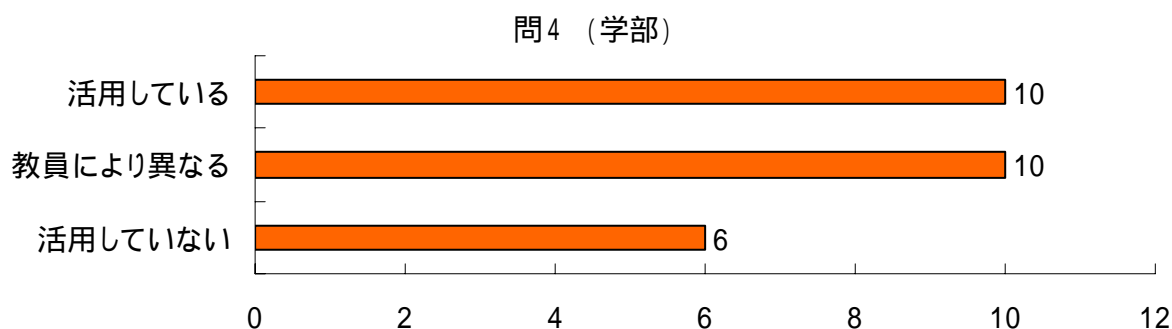
利用している

- ・ コースごとで次年度の講義計画の策定などに利用されている（経営学研究科経営学専攻）
- ・ 授業の工夫について意見交換を行っている（経営学研究科キャリアデザイン学専攻，工学研究科建設工学専攻（建築学領域））
- ・ FD委員会を中心にアンケート結果の解析，教員へのフィードバックを行っている（工学研究科システム工学専攻（システム制御系））
- ・ 専攻主任と副主任，教育の質向上委員会の三者が授業評価を検討し，評価が極端に悪い教員については，改善のための努力をするように促している（.M.研究科I.M.専攻）
- ・ FD委員会を設置し授業評価に対する検討を行うとともにFD委員と執行部で構成される自己評価・点検委員会において，自己点検・評価活動にあたっている（法務研究科法務専攻）
- ・ 集計結果を元に，各教員が改善点を検討し，翌年の授業で改善するよう努めている（I.M.研究科アカウンティング専攻）

問4 . 図書館が行っている「ゼミ授業」支援サービスを活用していますか？

具体的な取り組みや現在の検討内容

学部



活用している

- ・ 「基礎ゼミ」で実施している（文学部哲学科，文学部心理学科，キャリアデザイン学部，社会学部，人間環境学部，現代福祉学部）
- ・ コンピュータリテラシーの授業時間内を利用して行っている（工学部機械工学科）
- ・ 「基礎物質化学」の授業内で活用している（工学部物質化学科）
- ・ ゼミごとに活用している（経済学部）
- ・ 教授毎に演習の時間などを利用して文献検索の方法の指導を依頼している（工学部生命機能学科）

教員により異なる

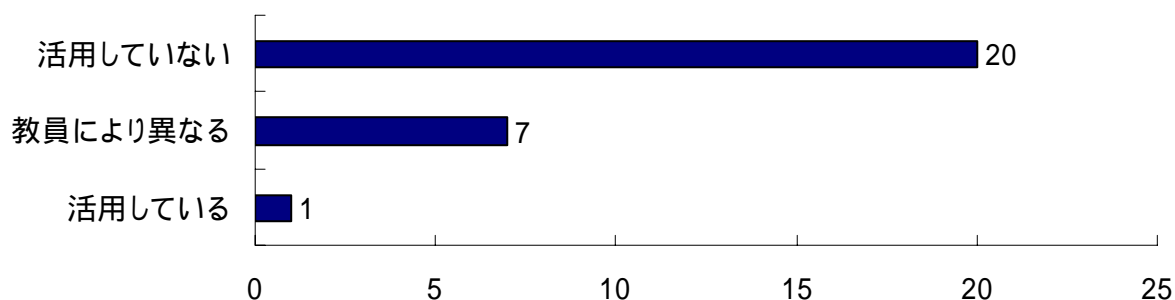
- ・ 利用している教員もいる（文学部英文学科，工学部電子情報学科，建築学科，国際文化学部，情報科学部，デザイン工学部，市ヶ谷地区教養教育運営協議会，法学部，経営学部）
- ・ 専門によって必要性や頻度は異なる（文学部日本文学科）

活用していない

- ・ 今後行う予定である（工学部情報電気電子工学科，文学部史学科）
- ・ 知らない教授が多いので宣伝活動をして欲しい（工学部経営工学科，システムデザイン学科，文学部地理学科）
- ・ 検討したい（工学部都市環境デザイン工学科）

大学院

問4 (大学院)



活用していない

- ・ 入学者に対するガイダンスに際してはそのことを周知させる (経営学研究科経営学専攻)
- ・ 現在は活用していないが社会人の学生については考えていきたい (経済学研究科経済学専攻)
- ・ 大学院の場合文献検索ができることは当然の前提であるので意味がない (法学研究科法律学専攻)
- ・ ゼミの指導教員が個別に指導している (人文科学研究科日本文学専攻)
- ・ 大学院棟から図書館までが遠すぎるため物理的障害となっている (人文科学研究科地理学専攻)
- ・ 必要な院生に対しては個別に支援サービスを受けるよう指示している (人間社会研究科)
- ・ 学生に周知徹底させる方法を講じてほしい (法務研究科法務専攻)
- ・ 大学院レベルでは個人の問題だと判断している (経営学研究科キャリアデザイン学専攻, 国際文化研究科国際文化専攻)
- ・ 検討してみたい (工学研究科建設工学専攻(都市環境デザイン工学領域), システムデザイン研究科システムデザイン専攻)
- ・ 特に利用していない(人文科学研究科哲学専攻, 英文学専攻, 工学研究科建設工学専攻(建築学領域), I.M.研究科I.M.専攻, 社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人文科学研究科日本史学専攻, I.M.研究科アカウンティング専攻)

教員により異なる

- ・ 利用している教員もいる (政治学研究科政治学専攻, 工学研究科機械工学専攻, 電気工学専攻, システム工学専攻(経営系), システム工学専攻(システム制御系), 物質化学専攻, 情報電子工学専攻)

活用している

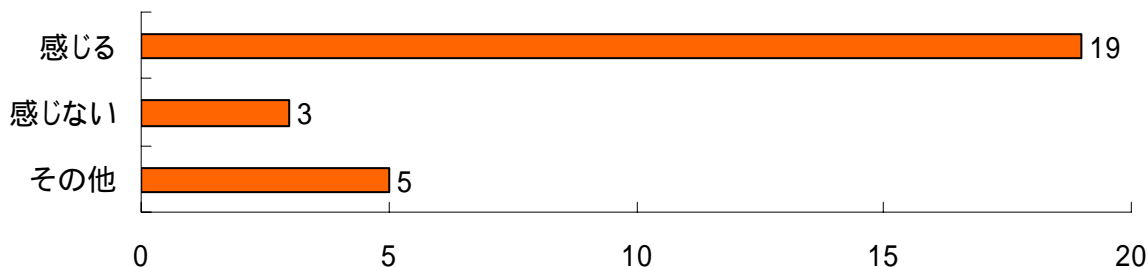
- ・ 「認知学習過程演習」で全新入生を対象に入庫ガイダンスまで含めて実施している (人文科学研究科心理学専攻)

問5.「新入生の学力低下」を感じますか？

具体的な内容

学部

問5 (学部)



感じる

- ・ 漢字が読めない，漢字離れ（文学部哲学科，文学部日本文学科）
- ・ レポートの書き方の杜撰さ（文学部英文学科）
- ・ 学習態度，取り組む姿勢（文学部英文学科，心理学科，工学部機械工学科，国際文化学部）
- ・ 英文法の理解，語彙力，読書量（文学部英文学科）
- ・ 消極的（文学部心理学科）
- ・ 数学，理科の学力（工学部機械工学科，情報電気電子工学科，電子情報学科，建築学科，デザイン工学科）
- ・ 文章作成力（工学部経営工学科）
- ・ 時間当たりに回答できる問題数（工学部都市環境デザイン工学科）
- ・ 演繹して問題を解決する力，証明する力（情報科学部）
- ・ 読解力（キャリアデザイン学部）
- ・ 語彙力・論理的思考力（法学部）
- ・ 常識的なことを知らない（文学部哲学科）
- ・ 公認会計士を目指すような成績上位者のレベルダウンを感じる（経営学部）
- ・ 高校レベルの知識が身に付いていない（人間環境学部）

感じない

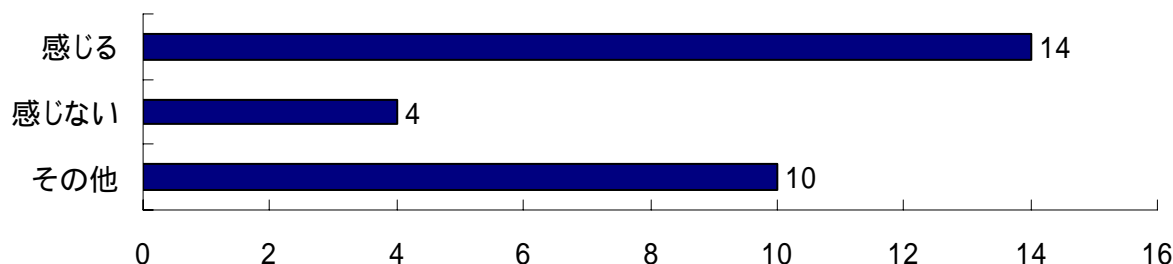
- ・ 学力が劣っているのではなく基礎知識の面で個人差がある（文学部史学科）
- ・ 顕著な学力低下は感じられない（文学部地理学科，工学部システムデザイン学科）

その他

- ・ 教員により差異あり（工学部物質化学科，経済学部，社会学部）
- ・ 熱心さと試験結果にギャップがある（市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ 英語について入試経路による学力差が議論されることがある（現代福祉学部）

大学院

問5 (大学院)



感じる

- ・ 専門分野に関する知識 (政治学研究科, 工学研究科機械工学専攻, 電気工学専攻, システムデザイン研究科システムデザイン専攻, 経済学研究科経済学専攻, 人文科学研究科日本史学専攻)
- ・ 語学力 (政治学研究科, 経済学研究科経済学専攻, 社会学研究科社会学専攻)
- ・ 基本的な学習態度ができていない (人文科学研究科心理学専攻, 工学研究科システム工学専攻 (システム制御系))
- ・ 消極的 (人文科学研究科心理学専攻)
- ・ コミュニケーション能力 (工学研究科建設工学専攻 (建築学領域))
- ・ 理解力 (工学研究科システム工学専攻 (経営系), (システム制御系))
- ・ 基本的な学力 (人文科学研究科日本文学専攻)
- ・ 定員補充率を上げるためにハードルを下げたことも一因である (人文科学研究科地理学専攻)

感じない

- ・ 特に感じていない (経営学研究科経営学専攻, 工学研究科建設工学専攻 (都市環境デザイン工学領域), 物質化学専攻, I.M. 研究科 I.M. 専攻)

その他

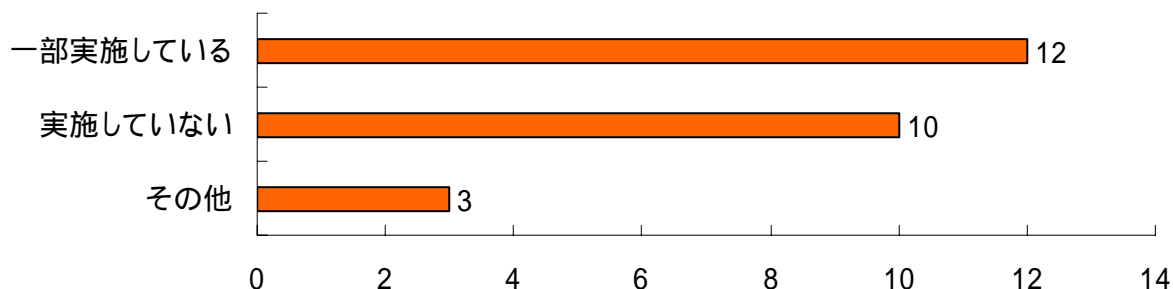
- ・ 学力低下よりも学力格差が大きい (経営学研究科キャリアデザイン学専攻)
- ・ 物足りなさは感じる (国際文化研究科国際文化専攻)
- ・ 教員により差異あり (人文科学研究科英文学専攻)
- ・ 大学院の設問ではない (工学研究科情報電子工学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人間社会研究科)
- ・ 研究職向け大学院に来る院生はモラトリアム人間であるか社会人となってしまった (法学研究科法律学専攻)
- ・ 特になし (政策科学研究科政策科学専攻, 法務研究科法務専攻)
- ・ 専門職大学院であることから回答を省略 (I.M. 研究科アカウンティング専攻)

問6．習熟度別クラス編成について，実施していますか？

具体的な内容

学部

問6 (学部)



一部実施している

- ・ 語学のクラスで実施している (工学部建築学科, 都市環境デザイン工学科, 国際文化学部, キャリアデザイン学部, デザイン工学科, 市ヶ谷地区教養教育運営協議会, 法学部, 経済学部, 工学部システムデザイン学科, 社会学部, 経営学部)
- ・ Java プログラミングの授業において実施している (情報科学部)

実施していない

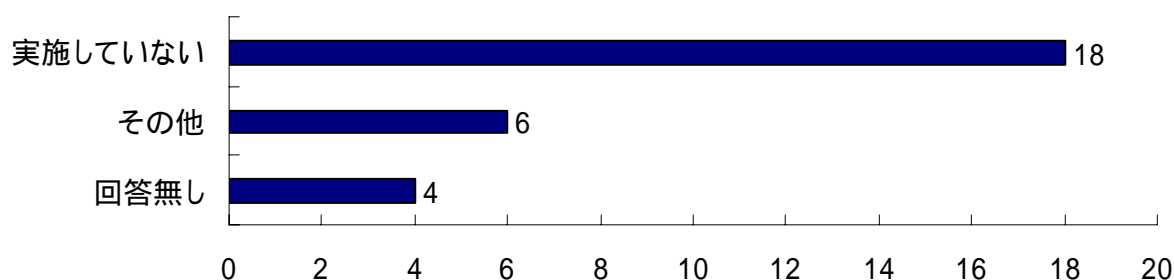
- ・ 学問的性格上必要性を感じない (文学部心理学科)
- ・ 習熟度クラスを設けなくても, 担当授業の中である程度のフォローは心がけている (文学部史学科)
- ・ 何らかの対応は必要であるとの意見は出ている (文学部地理学科)
- ・ 多くの授業は卒業研究と連動しているため担当教員が個別に対応する (工学部生命機能学科)
- ・ 今後の検討課題である (人間環境学部)
- ・ 来年度より英語のクラスで習熟度別クラス編成を実施する予定である (現代福祉学部)
- ・ 今後検討していきたい (工学部電子情報学科)
- ・ 必要性を感じていない (工学部経営工学科)
- ・ 学科として実施していない (文学部哲学科, 工学部機械工学科)

その他

- ・ 少人数制による「大学での国語力」の再履修クラスを設定している (文学部日本文学科)
- ・ 「英語表現演習」において不完全なかたち (必ずしも習熟度にあったレベルに入れるとは限らない) で実施している (文学部英文学科)
- ・ 入学試験で受験科目となっていない学生対象に「化学基礎数学演習」「化学基礎物理演習」を単位認定科目として設け, 高校レベルを中心とした講義を行っている (工学部情報電気電子工学科)

大学院

問6 (大学院)



実施していない

- ・ 指導教員が個別に対応している (工学研究科機械工学専攻, 電気工学専攻, 工学研究科システム工学専攻 (経営系), (システム制御系), 物質化学専攻, 情報電子工学専攻)
- ・ クラス編成で補う方法が有効とはいえない (工学研究科建設工学専攻 (建築学領域))
- ・ 必要性がない (人文科学研究科心理学専攻)
- ・ 実施していない (経営学研究科経営学専攻, キャリアデザイン学専攻, 国際文化研究科国際文化専攻, 人文科学研究科英文学専攻, 工学研究科建設工学専攻 (都市環境デザイン工学領域), システムデザイン研究科システムデザイン専攻, I.M.研究科 I.M.専攻, 法学研究科法律学専攻, 人文科学研究科日本文学専攻, 地理学専攻)

その他

- ・ 留学生に関しては, アジア系語学に堪能な教員が特別の講義を実施し, 対応している (政治学研究科政治学専攻)
- ・ 習熟度に分けてはいないが哲学科出身学生以外を主な対象として哲学史の講義科目を設定している (人文科学研究科哲学専攻)
- ・ 学部レベルの教育に落とさなければならない場合がある (経済学研究科経済学専攻)
- ・ 英語原書購読は毎年少なくとも1~2名が受講している (人間社会研究科)
- ・ 1年生で「法学」未履修者に対しては重点的に指導し, 2年生からは, 履修者と一緒に勉強するシステムになっている (法務研究科法務専攻)
- ・ 一定の習熟度に満たない学生に対して「基本財務会計」「基本原価計算」「簿記実習」を設定している (I.M.研究科アカウンティング専攻)

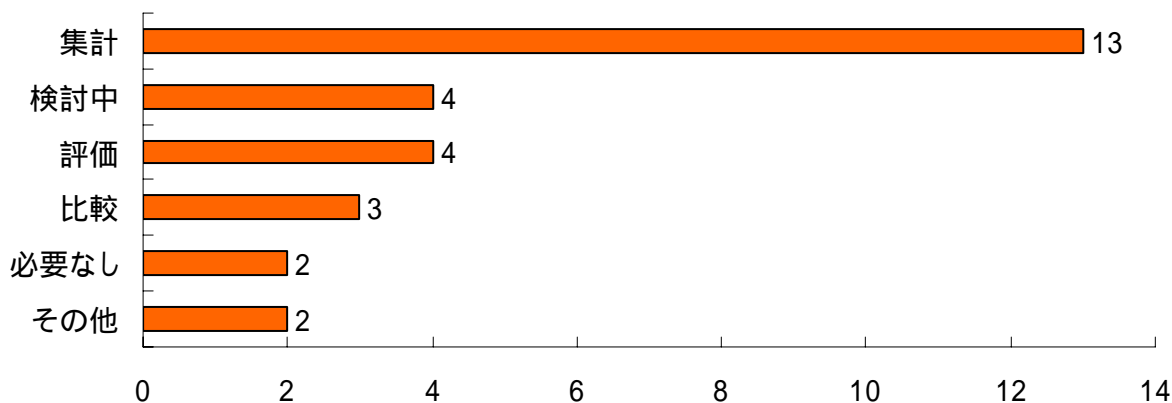
回答なし

(社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人文科学研究科日本史学専攻)

問7 . 2007 年度からの全体的なG P Aの導入に伴い, G P C Aの運用に関する検討が始まっています。ど
ういった参照情報が必要ですか? 必要な参照情報

学部

問7 (学部)



集計

- ・ 担当教員別, 科目別で集計を行いたい (工学部機械工学科, 情報科学部, 法学部, 経営学部)
- ・ 入試経路別のG P C Aを出したい (文学部心理学科, 工学部電子情報学科)
- ・ 学科内で集計したい (工学部情報電気電子工学科, 電子情報学科, 情報科学部, 法学部, 文学部地理学科)
- ・ 受講人数, 授業形式別に集計したい (文学部地理学科)
- ・ 学部単位で集計したい (情報科学部)

検討中

- ・ 受講生が少ない場合や実験科目は別途評価を検討する必要がある (工学部都市環境デザイン工学科)
- ・ どのように活用するかは今後の検討課題である (国際文化学部, 文学部史学科, 工学部生命機能学科)

評価

- ・ 評価の仕方が語学科目と講義科目で異なる (市ヶ谷地区教養教育運営協議会)
- ・ 相対評価が出来ない科目も存在するので評価方法の基準等の情報 (社会学部, 人間環境学部, 現代福祉学部)

比較

- ・ 昼間の学生と夜の学生とを比べたい (文学部日本文学科)
- ・ 2クラス制の授業で指標として活用したい (工学部経営工学科)
- ・ 各授業で比較できるようにしてほしい (キャリアデザイン学部)

必要なし

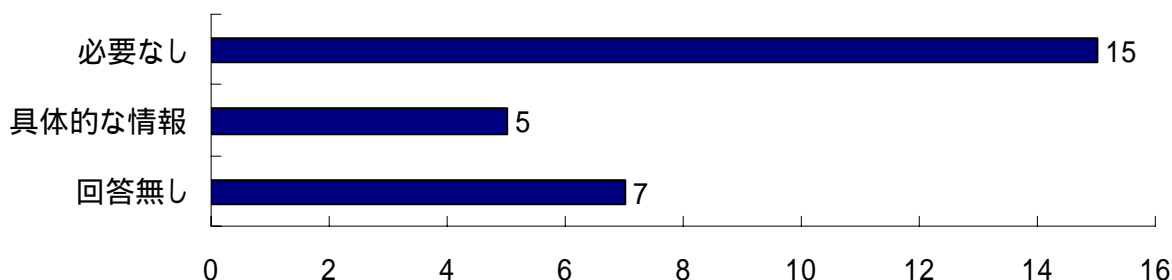
- ・ 特に意見が出ていない (工学部物質化学科)
- ・ 特に検討する段階にはなっていない (工学部システムデザイン学科)

その他

- ・ 他大学の例があればその理由と共に紹介して欲しい (文学部哲学科)
- ・ 全学科にわたり公開することになっている (デザイン工学部)

大学院

問7 (大学院)



必要なし

- ・ 検討したい (システムデザイン研究科システムデザイン専攻)
- ・ 少人数制の科目が多いので馴染まない (政治学研究科政治学専攻, 国際文化研究科国際文化専攻, 人文科学研究科哲学専攻, 英文学専攻, 工学研究科機械工学専攻, 建設工学専攻 (都市環境デザイン工学領域, 物質化学専攻, 法学研究科法律学専攻, 人文科学研究科日本文学専攻)
- ・ 専攻内部で、各教員が担当クラスのGPCAを持ち寄って比較検討することにより参照データを用意できるので、センターからの参照情報は必要ない (人文科学研究科心理学専攻)
- ・ メリットを感じない (工学研究科電気工学専攻, 工学研究科システム工学専攻 (経営系))
- ・ 数値情報よりも各個人の定性的内容の把握がより重要である (工学研究科建設工学専攻 (建築学領域))
- ・ 特になし (経営学研究科キャリアデザイン学専攻)

具体的な情報

- ・ 必要な参照情報に関しては、複数の意見がある。コース単位でGPCA集計する。大学院の場合、受講者数や成績のつけ方から考えて、適応しない。大学院の場合ほとんどが10人前後の講義であるので、GPCAのような情報よりも成績を「絶対評価」しているのか、「相対評価」しているのかという情報の方が必要と考える (経営学研究科経営学専攻)
- ・ 専攻単位でGPCAを集計したい (人文科学研究科日本史学専攻)
- ・ 専攻単位でのデータがあれば参考になるかもしれない (人文科学研究科地理学専攻)
- ・ 評価方法についての情報が必要である (人間社会研究科)
- ・ GPCAに関する情報をどのように活用することが出来るかどうかについて専攻委員会で検討していきたい (I.M.研究科アカウンティング専攻)

回答なし

(工学研究科システム工学専攻(システム制御系), 工学研究科情報電子工学専攻, I.M.研究科I.M.専攻, 社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 法務研究科法務専攻)

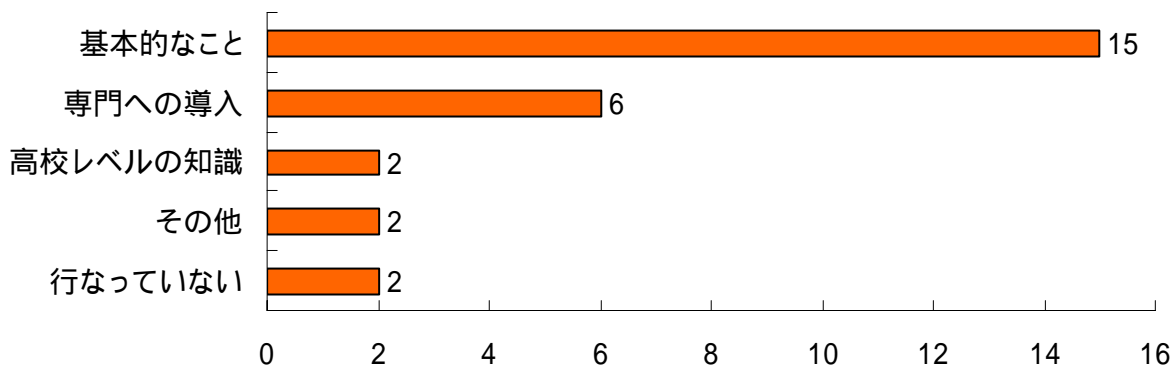
以下問8～問12は「初年次教育」への取り組みに関する質問です。

問8．どのようなことを実施していますか？

具体的な実施内容

学部

問8（学部）



基本的なこと

- ・ レポート・論文の書き方を解説し実習させている（文学部哲学科，心理学科，工学部機械工学科，建築学科，生命機能学科，国際文化学部，キャリアデザイン学部，経済学部，社会学部）
- ・ 図書館の利用の仕方を教えている（文学部哲学科，デザイン工学部）
- ・ 大学生としての心構えや講義の受け方について指導している（文学部地理学科，現代福祉学部）
- ・ 大学生として必要な能力についての教育を行っている（経営学部，人間環境学部）

専門への導入

- ・ 「基礎ゼミ」を配置しているが専門への導入になっている（文学部英文学科，市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ 専門科目への導入に対応できている（工学部経営工学科，都市環境デザイン工学科，法学部，文学部史学科）

高校レベルの知識

- ・ 高校レベルの読む，聞く，書くという能力を論文や学術的評論を対象にするまでに高めていく（文学部日本文学科）
- ・ 高校教員にお願いしたこともある（工学部物質化学科）

その他

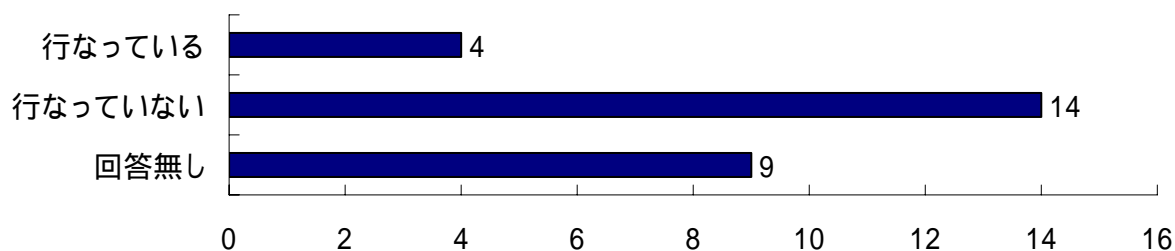
- ・ 初年次教育ではないが2年生後期にレポートの書き方等の指導を行う（工学部情報電気電子工学科）
- ・ 担当教員に任されている（工学部システムデザイン学科）

行っていない

（工学部電子情報学科，情報科学部）

大学院

問8 (大学院)



行っている

- ・ キャリアデザイン研究法 の中で研究法デザインの講義を行っている (経営学研究科キャリアデザイン学専攻)
- ・ 国際文化研究A・Bが該当する (国際文化研究科国際文化専攻)
- ・ システム工学概論の授業を実施している (工学研究科システム工学専攻 (システム制御系))
- ・ 語学の少人数講義の実施 (外書演習) (法学研究科法律学専攻)

行っていない

- ・ 外国人留学生に対して日本古典文学の基礎的な読解力を身に付けさせることを目的とした授業を設置しているが、一般学生に対しては行っていない (人文科学研究科日本文学専攻)
- ・ 他大学からの入学者に関しては学部ゼミに2年間参加させている (人文科学研究科日本史学専攻)
- ・ 大学院から専門分野を学ぶ学生は学部の授業を受講するよう指導している (人文科学研究科地理学専攻)
- ・ 学生の受講態度に問題があるため受講拒否する以外に方途がない (工学研究科電気工学専攻)
- ・ 行っていない (政治学研究科政治学専攻, 経営学研究科経営学専攻, 人文科学研究科哲学専攻, 工学研究科建設工学専攻 (都市環境デザイン工学領域), (建築学領域), システム工学専攻 (経営系), 物質化学専攻, 情報電子工学専攻, システムデザイン研究科システムデザイン専攻)

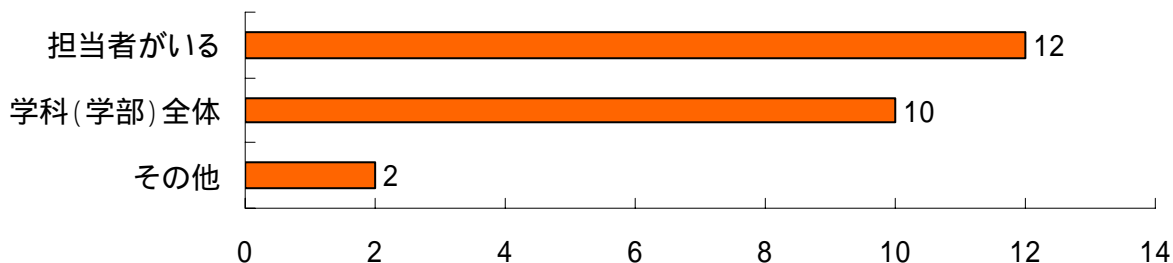
回答なし

(工学研究科機械工学専攻, 電気工学専攻, I.M.研究科I.M.専攻, 経済学研究科経済学専攻, 社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 法務研究科法務専攻, I.M.研究科アカウンティング専攻)

問9 . 誰が実施の主体（責任者）になっていますか？

学部

問9（学部）



担当者がいる

- ・ 「基礎ゼミ」を担当する教員2名（文学部哲学科）
- ・ 個別の担当教員（文学部英文学科，心理学科，工学部経営工学科，キャリアデザイン学部，文学部史学科，地理学科，工学部生命機能学科，経営学部）
- ・ 各学科の主任教授（デザイン工学部）
- ・ 専任教員がローテーションで担当（人間環境学部）
- ・ 学部執行部（現代福祉学部）

学科（学部）全体

- ・ 全員で協力しながら行っている（文学部日本文学科，国際文化学部）
- ・ 学科全体で取り組んでいる（工学部機械工学科，物質化学科，建築学科，都市環境デザイン工学科，法学部，工学部システムデザイン学科，社会学部，経済学部）

その他

- ・ 各学部が行っている（市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ 回答なし（工学部情報電気電子工学科）

* 工学部電子情報学科，情報科学部は初年次教育を行っていないため，グラフには入れていない

大学院

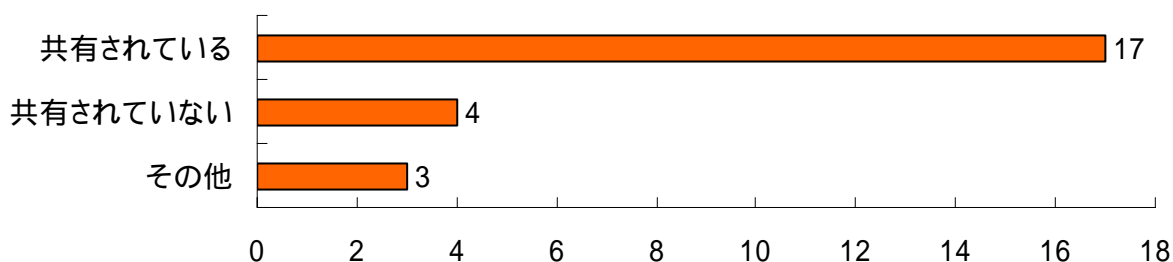
問8で初年次教育を行っていると答えた4専攻の回答

- ・ 各 Semester 2人，年間4人の授業担当者（国際文化研究科国際文化専攻）
- ・ 学科主任（工学研究科システム工学専攻）
- ・ 研究科専攻会議で審議し専攻主任が責任を持つ（法学研究科法律学専攻）
- ・ 回答なし（経営学研究科キャリアデザイン学専攻）

問10. 教員間でカリキュラム・教材等の情報は共有されていますか？

学部

問10 (学部)



共有されている

- ・ 関係者で打ち合わせをしている，話し合っている（文学部哲学科，工学部機械工学科，情報電気電子工学科，建築学科，都市環境デザイン工学科，デザイン工学部，生命機能学科，経営学部）
- ・ 同じ教材を使用し，評価も相談している（文学部日本文学科，市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ シラバスで共有化が行われている（工学部物質化学科，経営工学科，文学部地理学科）
- ・ マニュアルが示されそれに沿って行われている（国際文化学部）
- ・ メーリングリストや掲示板を通じて共有に努めている（キャリアデザイン学部）
- ・ 当然そのつもりである（工学部電子情報学科）
- ・ 基礎ゼミ間，英語間，実習教育に関わる科目間では積極的に取り組んでいる（現代福祉学部）

共有されていない

- ・ 他の教員を意識して授業内容を作成することは必ずしもいいことだとは思えない（文学部英文学科）
- ・ 教材として何を用いるかについては情報共有が進んでいるとはいえないが大きな問題はない（文学部史学科）
- ・ 昨年度までは担当会議を設けて情報共有を図っていたが，今年度は実施されていない（経済学部）
- ・ ガイドラインを設けているが，カリキュラム・教材等の共有までは行っていない（人間環境学部）

その他

- ・ 1人で担当しているので共有の問題はない（文学部心理学科）
 - ・ 各科目の担当責任者の教員（1名）が全体のカリキュラムの計画と立案と講義の運営を行っている（法学部）
 - ・ 個人ベースで情報共有している場合はあるが分野を超えた場合には難しい（工学部システムデザイン学科）
- *工学部電子情報学科，情報科学部は初年次教育を行っていないため，グラフには入れていない

大学院

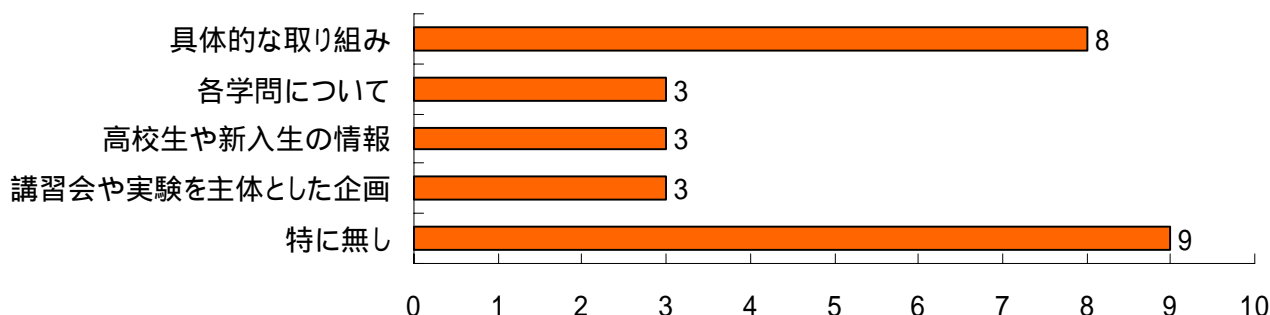
問8で初年次教育を行っている と答えた 4 専攻の回答

- ・ 各分野の必読文献を交換している（経営学研究科キャリアデザイン学専攻）
- ・ 一応，どのような授業をしているかは承知しているが，密接に連携をとっているとは言えない（国際文化研究科国際文化専攻）
- ・ シラバスを介して情報交換が可能である（工学研究科システム工学専攻）
- ・ 担当教員の関心と考えに任されている（法学研究科法律学専攻）

問11.「初年次教育について」欲しい情報，参加してみたい「企画」を記述してください。
 具体的な内容

学部

問11 (学部)



具体的な取り組み

- ・ 他大学の事例や有効な情報 (文学部哲学科, 工学部物質化学科, システムデザイン学科, 法学部)
- ・ 具体的な取り組みについての情報, 基本的な情報 (工学部機械工学科, 情報電気電子工学科)
- ・ カリキュラムや教材に関する情報 (キャリアデザイン学部, 人間環境学部)

各学問について

- ・ 「心理学」という学問に対する入学時のイメージを知り, カリキュラムの参考にしたい (文学部心理学科)
- ・ 教養専門としての化学実験のあり方 (工学部物質化学科)
- ・ 数学・物理で, 各大学でどの程度の範囲まで教えているかの情報 (工学部都市環境デザイン工学科)

高校生や新入生の情報

- ・ 新入生に何が必要か, そしてそれは学科単位で与えるべき情報かについての情報 (文学部英文学科)
- ・ 高等学校の情報 (デザイン工学部)
- ・ 新入生の入学経路, 受験科目などの情報 (文学部地理学科)

講習会や実験を主体とした企画

- ・ 参加型実験を主体とした「企画」への参加希望 (工学部機械工学科)
- ・ 授業支援システムを利用するガイダンス的な講習会を「企画」してほしい (工学部建築学科)
- ・ 心理学科の公開プログラムに参加してみたい (文学部史学科)

特になし

(文学部日本文学科, 経営工学科, 国際文化学部, 市ヶ谷地区教養教育運営協議会, 経済学部, 工学部生命機能学科, 社会学部, 経営学部, 現代福祉学部)

*工学部電子情報学科, 情報科学部は初年次教育を行っていないため, グラフには入れていない

大学院

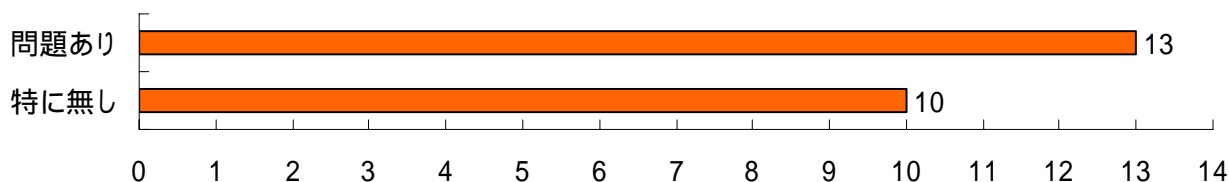
問8で初年次教育を行っている と答えた4専攻の回答

- ・ SPSSなどの統計ソフトの利用 (経営学研究科キャリアデザイン学専攻)
- ・ 同様の他大学院での取り組み (国際文化研究科国際文化専攻)
- ・ 学部横断的な, 論文の書き方についての講座 (法学研究科法律学専攻)
- ・ 特になし (工学研究科システム工学専攻)

問12. 初年次教育を実施してみて、教員側・学生側で何か問題になった、あるいは問題が明らかになったことはありますか？ 具体的な内容

学部

問12 (学部)



問題あり

- ・ 留学生対象の「大学での国語力」の履修者が3名しかいない(文学部日本文学科)
- ・ 「基礎ゼミ」の参加学生の割合の低さ(文学部英文学科)
- ・ 学力低下(工学部機械工学科, 情報電気電子工学科)
- ・ 今回の「チュートリアル」は今年度、初めて実施されたもので、特定の曜日時間があるわけでも、教室が割り当てられているわけでもない。8人程度とはいえ、学生を一堂に集めて行うことは、かなりの困難が伴う。また教員にとっても、「1コマ増」に匹敵する負担がある(国際文化学部)
- ・ クラスはあくまで機械的に振り分けているので、先生によって差異が出てしまうと、学生に不公平感を与えかねないのでは、と些か危惧している(キャリアデザイン学部, デザイン工学部)
- ・ リテラシ教育というテーマで授業を行っているが、読むこと(本や文献資料の読解)と、書くこと(レポートの書式や体裁など)を同時に扱うのは、ひとつの授業の中では少々時間的に苦しいものがある(キャリアデザイン学部)
- ・ 大教室に慣れてしまうと私語が多い(法学部)
- ・ 学生の情報を共有することができていない(文学部地理学科)
- ・ 1クラスの学生数が40名を超えて多いため、指導が十分に行き届かない傾向がある(経済学部)
- ・ 遅刻学生数が増大している(社会学部)
- ・ 成績評価のガイドラインはあるがどこまで守られているか不明である(人間環境学部)

特になし

(文学部哲学科, 文学部心理学科, 工学部物質化学科, 経営工学科, 都市環境デザイン工学科, 文学部史学科, 工学部生命機能学科, システムデザイン学科, 経営学部, 現代福祉学部)

* 工学部電子情報学科, 情報科学部は初年次教育を行っていないため、グラフには入れていない

* 市ヶ谷地区教養教育運営協議会は回答なし

大学院

問8で初年次教育を行っているとした4専攻の回答

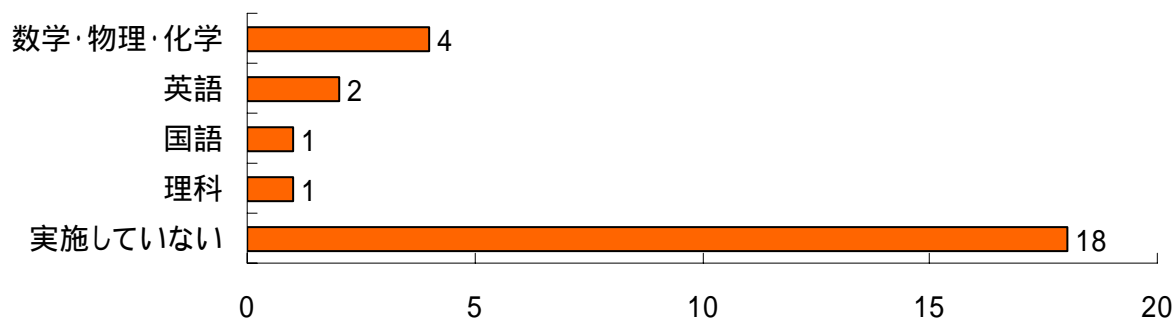
- ・ 何が初年次に行うべき基礎教育なのか必ずしも明らかではないこと(国際文化研究科国際文化専攻)
- ・ 特になし(工学研究科システム工学専攻, 経営学研究科キャリアデザイン学専攻, 法学研究科法律学専攻)

以下の問13～問16は、「リメディアル教育」への取り組みに関する質問です。

問13. どの教科について、実施していますか？

学部

問13 (学部)



数学・物理・化学

(工学部物質化学科, 情報電気電子工学科, 情報科学部, デザイン工学部)

英語

(情報科学部, 市ヶ谷地区教養教育運営協議会)

国語

(文学部日本文学科)

理科

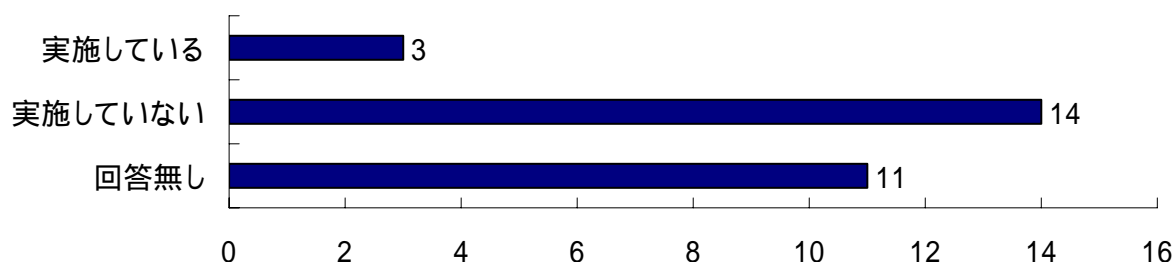
(人間環境学部)

実施していない

(文学部哲学科, 英文学科, 心理学科, 工学部機械工学科, 経営工学科, 建築学科, 都市環境デザイン工学科, 国際文化学部, キャリアデザイン学部, 法学部, 文学部史学科, 地理学科, 経済学部, 工学部生命機能学科, システムデザイン学科, 社会学部, 経営学部, 現代福祉学部)

大学院

問13 (大学院)



実施している

- ・ 個人的には講義の中で必要に応じて講義を補完するために行っている (工学研究科電気工学専攻)
- ・ I.M.専攻では、多様な背景を持った社会人が1年間でMBAを取得できる場を提供しているので、新入生のレベル合わせのために、4月1カ月間を「導入集中期」としていくつかの講義を提供している。最も受講生が多いのは「経営イノベーション体系」である (I.M.研究科I.M.専攻)
- ・ 原書講読がこれにあたる。また、二年次から副指導教員を設けて、より細やかな指導に努めている (人間社会研究科)

実施していない

(政治学研究科, 経営学研究科経営学専攻, キャリアデザイン学専攻, 国際文化研究科国際文化専攻, 人文科学研究科哲学専攻, 心理学専攻, 工学研究科建設工学専攻 (都市研究デザイン領域), (建築学領域), システム工学専攻 (経営系), (システム制御系), 物質化学専攻, 情報電子工学専攻, システムデザイン研究科システムデザイン専攻, 法学研究科法律学専攻)

回答なし

(人文科学研究科英文学専攻, 工学研究科機械工学専攻, 経済学研究科経済学専攻, 社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人文科学研究科日本文学専攻, 日本史学専攻, 地理学専攻, 法務研究科法務専攻, I.M.研究科アカウンティング専攻)

問14. どのような形態で実施していますか？

具体的な実施内容

学部

「リメディアル教育」を実施している7学科(学部)の回答

- ・ 「大学での国語力」の講義，特に再履修クラス。その他，日本文学科なのに，日本史を高校で履修していない学生も中には在籍し，そういう場合は，ゼミ授業などを通して個々に対応している(文学部 日本文学科)
- ・ 通常の授業科目として開講(工学部物質化学科)
- ・ 学科教員が取りまとめ，高校教員に講義を行ってもらう(工学部情報電気電子工学科)
- ・ 数学：数理リテラシ・・・4クラス(4人の教員が担当)設置，各クラスに4人のTAをつける。1クラスは2コマ/週で設置。各クラスは共通の高校の教科書(数学III, 数学C)をテキストとして，演習を中心に個々の進度状況に合わせて実施。原則，高校時代に数Ⅲ, Cを履修していない学生が登録。各クラス10名程度
英語：英語リテラシ・・・1クラス，1コマ/週で設置。入学時のTOEFL試験の低い学生が登録。10名程度(情報科学部)
- ・ 制度化はしていないが，教員の自主的な対処による。当初，補習科目を時間割に掲載していたが，足並みが揃っていないとは言い難いようだ。(デザイン工学部)
- ・ Introductory English for Athletes(旧称スポーツ英語。必修英語に代替する。スポーツ推薦による入学者を対象。07年度よりSSI限定) English for Novice Learners(旧称ノヴィス英語。必修英語に代替する。英語初習者対象)補講英語(English 1, English 2の補講クラス。2006年開講，8コマ)(市ヶ谷地区教養教育運営協議会)
- ・ 理系を専門分野とする専任教員によるオムニバス形式で授業を行っている(人間環境学部)

大学院

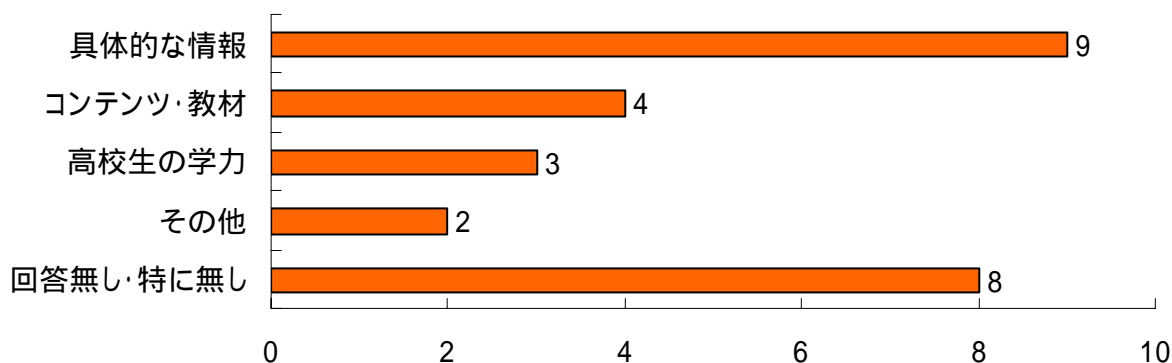
「リメディアル教育」を実施している3専攻の回答

- ・ 例えば，三角関数の公式を複素数やテイラー級数を使って導く方法など教えている(工学研究科電気工学専攻)
- ・ 週2日，一日あたり2コマ，合計週4コマを3週半7日にわたって提供している。各回ごとに課題を設定し，講義とグループ討議を組み合わせることで学生の理解を深めるようにしている(I.M.研究科I.M.専攻)
- ・ 原書講読を正規の科目として開講している(人間社会研究科)

問15.「リメディアル教育」について、欲しい情報、参加してみたい「企画」を記述してください。
 具体的な内容

学部

問15 (学部)



具体的な情報

- ・ 他大学、他学部での情報（文学部哲学科，工学部物質化学科，デザイン工学部，市ヶ谷地区教養教育運営協議会，文学部史学科，現代福祉学部）
- ・ 専門の学科，学部単位で取り組むべきかという情報（文学部英文学科）
- ・ リメディアルの具体的な内容が分かる企画（情報科学部，工学部システムデザイン学科）

コンテンツ・教材

- ・ 日本語リメディアルのいい教材，できればe-ラーニングで（文学部心理学科）
- ・ 具体的な理系関係の使用されているコンテンツの情報（工学部機械工学科）
- ・ e-learning の効果やアクセス件数の推移に関する情報（工学部建築学科）
- ・ 初等数学の演習授業の方法についての情報（経済学部）

高校生の学力

- ・ 入試データ以外の最近の高校卒業生の学力などの情報（工学部情報電気電子工学科，経営学部）
- ・ 高校卒業程度の水準であるかどうかをチェックする手段（文学部史学科）

その他

- ・ 大学としての，組織的な取り組み（組織をつくること）が必要であり，これについてはFDのシンポジウムでも述べたつもりである（工学部電子情報学科）
- ・ 付属高校の先生とも連携しながら，補習授業に関する検討をしていただきたい（工学部都市環境デザイン工学科）

回答なし・特になし

- ・ 回答なし（国際文化学部，キャリアデザイン学部，工学部生命機能学科）
- ・ 特になし（文学部日本文学科，工学部経営工学科，法学部，社会学部，人間環境学部）

大学院

すべての研究科において大学院としての回答なし

問16. 「リメディアル教育」を実施してみて、教員側・学生側で何か問題になった、あるいは問題が明らかになったことはありますか？ 具体的な内容

学部

「リメディアル教育」を実施している7学科(学部)の回答

- ・ 数理リテラシ・・・個人進度に合わせた授業であるため、進度に個人差がある。成績の評価法
英語リテラシ・・・登録するあるいは授業に参加する意欲がない(情報科学部)
- ・ 付属校(女子高), 指定校の一部では, 数学・物理を履修していないので, 一般入試を経た学生との
レベルの差が生じている(デザイン工学部)
- ・ リメディアル教育とはいえないかもしれないが, 高校時代と大学入学直後とを比較すると, 学生の体
力は高校時代の方が上であるので, それを元に戻す努力はしている。身障者のための体育を考える必
要があると思う(市ヶ谷地区教養教育運営協議会)
- ・ 必修科目であるため受講者数が400名を越えた。来年度は200名ずつとなるようクラス指定するこ
とを考えている(人間環境学部)
- ・ 特になし(文学部日本文学科, 工学部物質化学科, 工学部情報電気電子工学科)

大学院

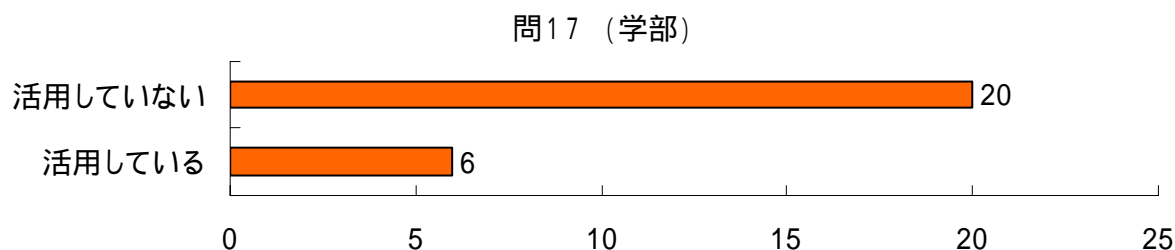
政治学研究科政治学専攻のみ回答

- ・ 問6でも触れたとおり留学生に関しては, 研究上・生活上できめ細かい配慮が必要である。留学生に
ついては, 研究面のみならず, 生活面でも様々な悩みについて相談に乗っている。習熟度別というよ
りも, 「大学院生に対する初年次教育」が必要かと思われる。オリエンテーション(研究科長の責任で,
外部講師を呼んで, 修士・博士論文の書き方などを指導)のための科目(「特殊演習」)を開講してい
る。専門知識・教科内容について欠落がある場合には, 学部授業の聴講を奨めている。留学生向けの
特別講義は正規の科目(シラバスにも明記)。今後はレベル別開講も検討したい

以下の問17～問21は、「FD」の今後の展開に関連する質問です。

問17．学生への支援の一環として、「新入生サポーター制度」を活用していますか？

学部



活用していない

- ・ 制度を知らない（文学部日本文学科，英文学科，工学部機械工学科，情報電気電子工学科，法学部，文学部地理学科，工学部システムデザイン学科）
- ・ 特に必要性がない（文学部哲学科，工学部経営工学科，デザイン工学部，文学部史学科，社会学部，人間環境学部）
- ・ 今後検討したい（工学部物質化学科，建築学科，都市環境デザイン工学科，国際文化学部，情報科学部，工学部生命機能学科）
- ・ 学部生がもう少し積極的に動いてほしい（経済学部）

活用している

- ・ 在校生によるピア・サポーターの活動の一部として，入学式後のオリエンテーション期間中に，「新入生歓迎会」を実施している。また，その後も随時，相談窓口を設けて対応している（文学部心理学科）
- ・ 4年生が1年生の指導に当たる環境をつくって実績を上げている（工学部電子情報学科）
- ・ もとよりキャリアデザイン学部のコンセプトのひとつは「他者のキャリア形成の支援」であり，したがって履修アドバイスのための「ピア・アドバイザー」，留学生のための支援サークル，オリエンテーション合宿のための合宿サポーターなど，随所で学生による新入生へのサポート活動を実施している（キャリアデザイン学部）
- ・ 体育の授業に関して，最もサポートを必要としているのは，身障者の学生と考える。身障者の学生にとっては，教員の説明を立て聞くだけでも，たいへんである。現在の対応についていえば，その友人の学生がボランティアとして身障者の学生を補助している。身障者の学生に対するサポート体制を制度化する必要がある（市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ 国際交流センターと学部生にお願いしている（経営学部）
- ・ 基礎ゼミの開講日に上級生が補助を行い，1年生への情報提供などを行っている（現代福祉学部）

大学院

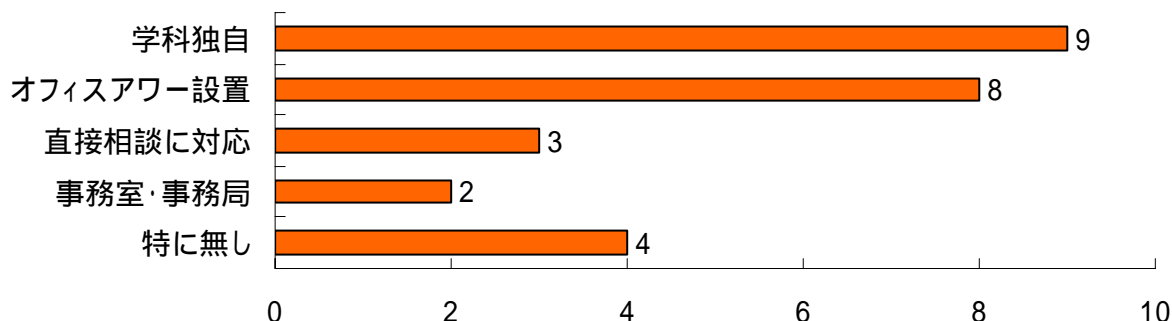
活用している3専攻の回答

- ・ 上級生が論文指導に当たることもあるがボランティア。予算措置がつけば，上級生を活用したい（政治学研究科政治学専攻）
- ・ 院生の組織があるのでそこで交流している（人文科学研究科日本文学専攻）
- ・ 「専攻委員会」がこの役割を担っている（人文科学研究科地理学専攻）

問18 . 学生への学習支援の一環として、何か相談窓口を設置したり、組織的に対応したりしていますか？ 具体的な内容

学部

問18 (学部)



学科独自

- ・ピア・サポーターが一次的な窓口になり、ピアのメンバーで対処しきれない場合には、ピアから教員に質問が来るという体制になっている（文学部心理学科）
- ・学科として「基礎物質化学」で対応している。2年生への対応が少し希薄かもしれない（工学部物質化学科）
- ・学科主任が対応し、教室会議で報告している（工学部建築学科）
- ・「Q & Aシート」という制度がある（国際文化学部）
- ・アドバイザー制度を導入し、1名の教員をアドバイザーに選任して、学生からの履修科目の選択等に関する相談窓口としている（情報科学部）
- ・学部にはキャリアアドバイザーが4名配置されており、常時学生からの相談を受け付けている（キャリアデザイン学部）
- ・1年生向け英語では各ゾーンごとに専任教員を配置し「コーディネーター」として非常勤教員からの相談を受け付けている。間接的ではあるがこれが学生への支援にもつながっている。体育でも同様に専任教員の曜日担当者を置いている（市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・法職講座は法職希望学生の相談窓口にもなっている（法学部）
- ・5月に新入生全員に面接を行っている（文学部史学科）

オフィスアワー設置

- ・オフィスアワーを設置している（文学部日本文学科，英文学科，工学部機械工学科，情報電気電子工学科，電子情報学科，都市環境デザイン工学科，デザイン工学部，人間環境学部）

直接相談に対応

- ・教員が個別相談に対応している（文学部哲学科，社会学部）
- ・個別に教員が対応しており、組織的に直接学生に対して対応はしていない。問題が発生した場合には、主任が主に対応する（工学部経営工学科）

事務室・事務局

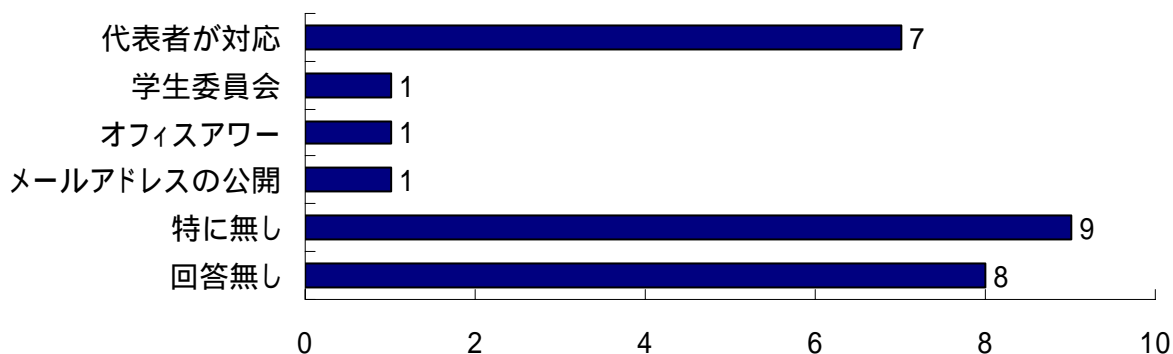
- ・学科事務室が窓口になり、必要に応じて、主任が対応する（工学部システムデザイン学科）
- ・教育支援では事務の果たす役割が大きい（現代福祉学部）

特になし

- （文学部地理学科，経済学部，工学部生命機能学科，経営学部）

大学院

問18 (大学院)



代表者が対応

- ・ 研究科長が窓口になり必要に応じて他の教員に相談しながらきめ細かく対応している (政治学研究科政治学専攻)
- ・ 各コースの代表者が窓口になっている (経営学研究科経営学専攻)
- ・ 担当教員が担当している (工学研究科情報電子工学専攻, システムデザイン研究科システムデザイン専攻)
- ・ 専攻主任が窓口となっている (人文科学研究科日本文学専攻, 地理学専攻, I.M.研究科アカウンティング専攻)

学生委員会

- ・ 学生委員会が役割を果たしている (I.M.研究科I.M.専攻)

オフィスアワー

- ・ オフィスアワーを設けている (工学研究科システム工学専攻(システム制御系))

メールアドレスの公開

- ・ 教員のメールアドレスを公開している (国際文化研究科国際文化専攻)

特になし

(人文科学研究科哲学専攻, 英文学専攻, 心理学専攻, 建設工学専攻(都市環境デザイン工学領域), (建築学領域), システム工学専攻(経営系), 物質化学専攻, 法学研究科法律学専攻, 人間社会研究科)

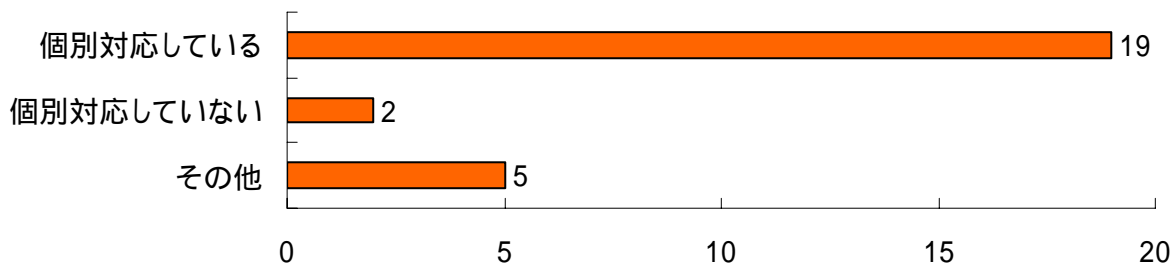
回答なし

(工学研究科機械工学専攻, 電気工学専攻, 経済学研究科経済学専攻, 社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人文科学研究科日本史学専攻, 法務研究科法務専攻)

問19.成績不振や学習意欲の問題から、休学・留年・退学の可能性がある学生に対して、個別に対応していますか？ 具体的な内容

学部

問19 (学部)



個別対応している

- ・ メールや電話、場合によっては面接をしている(文学部日本文学科)
- ・ 学生に対して個別に対応している(工学部機械工学科, 物質化学科, 国際文化学部, 情報科学部)
- ・ 成績に問題がある生徒がいる場合は個別に面談を行っている(工学部情報電気電子工学科)
- ・ 学科主任が出席の悪い生徒をリストアップして声をかける体制ができている(工学部電子情報学科)
- ・ 父母からの問い合わせに対して個別に対応している(工学部建築学科)
- ・ 留学生に対して個別に対応している(工学部都市環境デザイン工学科)
- ・ キャリアアドバイザーが相談に応じているが、それはあくまで学生から要請があった場合に限られるため、可能な限り執行部のメンバーが面談などをして学生の意思や状況を確認するよう努めている(キャリアデザイン学科)
- ・ ゼミ等で教員が個別に対応している(法学部, 文学部地理学科, 人間環境学部, 現代福祉学部)
- ・ 1年次の11月から12月にゼミ希望調査票を提出しない学生は個別に呼び出して指導する(文学部史学科)
- ・ 学部学生委員会による面接が毎年行われている(経済学部)
- ・ 成績が著しく思わしくない学生に対しては授業担当者が対応している(工学部システムデザイン学科)
- ・ 学生委員会と教務委員会で個別に行っている(社会学部)
- ・ 極端に不振の場合は、執行部が個別に対応している(経営学部)

個別対応していない

- ・ 今のところは特に対応していないが、必要性があるという認識はある。どこまで学校・教員が関与すべきか、難しい面もある(心理学科の教員だと、相談に対して、相手が過大に期待してしまう危険性もある)(文学部心理学科)
- ・ 直接的には対応していないし問題も発生していない(工学部経営工学科)

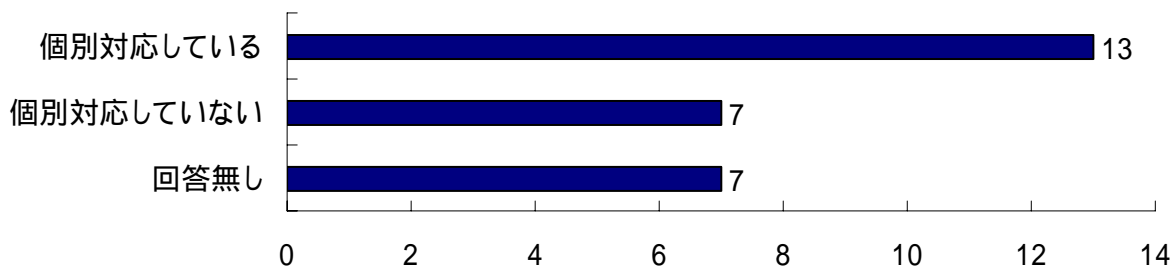
その他

- ・ 現状報告としては、専任教員が授業の前後やオフィスアワー、ゼミ合宿などで、個別的に学生からの要望に応じている(文学部哲学科)
- ・ 事務への問い合わせを行って、状況の把握に努めている。しかし、個別の連絡は、「卒業論文計画書」等の提出文書の督促以外はほとんど行っていない(文学部英文学科)

- ・ 各学科の教室会議で情報交換を行い、学科として対応している（デザイン工学部）
- ・ 体育では、体力が追いつかない学生、留年の可能性のある学生については受講授業の変更などに応じ
ている（市ヶ谷地区教養教育運営協議会）
- ・ 学科会議で語り、必要に応じて対応している（工学部生命機能学科）

大学院

問19（大学院）



個別対応している

- ・ 指導教授が対応している（政治学研究科政治学専攻，経営学研究科経営学専攻，人文科学研究科哲学専攻，英文学専攻，建設工学専攻（建築学領域），I.M.研究科 I.M.専攻，人文科学研究科日本文学専攻，人間社会研究科）
- ・ 個別相談（国際文化研究科国際文化専攻，法学研究科法律学専攻）
- ・ 呼び出し，面接を行っている（工学研究科システム工学専攻（システム制御系），情報電子工学専攻）
- ・ 成績不振の学生に対しては専攻主任が事情を聴取している（I.M.研究科アカウンティング専攻）

個別対応していない

（経営学研究科キャリアデザイン学専攻，人文科学研究科心理学専攻，工学研究科電気工学専攻，建設工学専攻（建築学領域），システム工学専攻（経営系），物質化学専攻，システムデザイン専攻）

回答なし

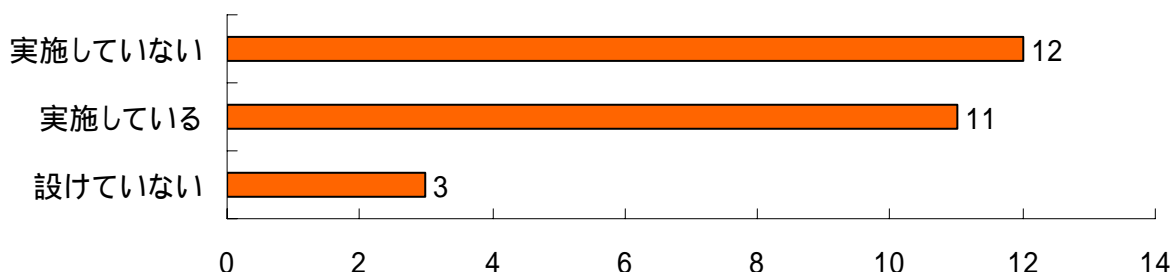
（工学研究科機械工学専攻，経済学研究科経済学専攻，社会学研究科社会学専攻，政策科学研究科政策科学専攻，環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻，人文科学研究科日本史学専攻，法務研究科法務専攻）

問20 .「オフィスアワー」を実質化するための何か工夫を組織的に実施していますか？

具体的な実施内容

学部

問20 (学部)



実施していない

- ・ 特に工夫はしていない (文学部哲学科, 英文学科, 工学部物質化学科, 文学部史学科, 社会学部)
- ・ 今後話し合いたい (文学部日本文学科, 経済学部, 人間環境学部)
- ・ オフィスアワーが実質化していない, 機能していない (文学部心理学科, 工学部電子情報学科, システムデザイン学科)
- ・ 教員により差がある (デザイン工学部)

実施している

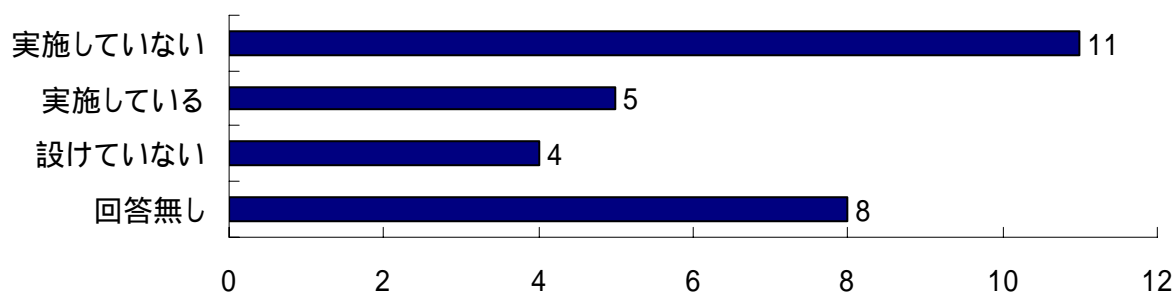
- ・ 対応表を作成し, 相談を受けた場合には報告することを義務化している (工学部機械工学科)
- ・ ガイダンスや授業などで説明を行っている (工学部情報電気電子工学科)
- ・ 研究室前に掲示してある (工学部経営工学科, 建築学科, 都市環境デザイン工学科, 工学部生命機能学科)
- ・ シラバスに明記してある (国際文化学部, 文学部地理学科, 工学部生命機能学科)
- ・ 各教員は3時間以上/週のオフィスアワーを設けている。ただし, 各教員のプライバシーを配慮してシラバス・Web 等での公開はせず, 情報科学部事務室に問い合わせることで学生は各教員のオフィスアワーを知ることができるようにしている (情報科学部)
- ・ 週1コマ以上オフィスアワーを設けることを義務づけている (現代福祉学部)
- ・ オフィスアワーの時間割表を作成し学生に配布している (経済学部)

設けていない

- ・ オフィスアワーを設けていない (キャリアデザイン学部, 市ヶ谷地区教養教育運営協議会, 法学部)

大学院

問20 (大学院)



実施していない

- ・ 特に行っていない (政治学研究科政治学専攻, 人文科学研究科地理学専攻, 英文学専攻, 工学研究科建設工学専攻(都市環境デザイン工学領域), システム工学専攻(経営系),(システム制御系), 物質化学専攻)
- ・ 個別に対応している (人文科学研究科心理学専攻, 工学研究科機械工学専攻, I.M.研究科I.M.専攻)
- ・ 無意味である (工学研究科電気工学専攻)

実施している

- ・ 設置を義務化している (国際文化研究科国際文化専攻, 法務研究科法務専攻)
- ・ オフィスアワーを設け, シラバス(学修要綱)に明記するとともに, 時間帯には基本的に教員へのフリーアクセスを許可する体制としている (システムデザイン研究科システムデザイン専攻)
- ・ 学部生向けのオフィスアワーを設けており, 院生もこれを共用させている (人文科学研究科地理学専攻)
- ・ 週1回昼休みに実施している (I.M.研究科アカウンティング専攻)

設けていない

- ・ オフィスアワーを設けていない (経営学研究科経営学専攻, キャリアデザイン学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 人文科学研究科日本文学専攻)

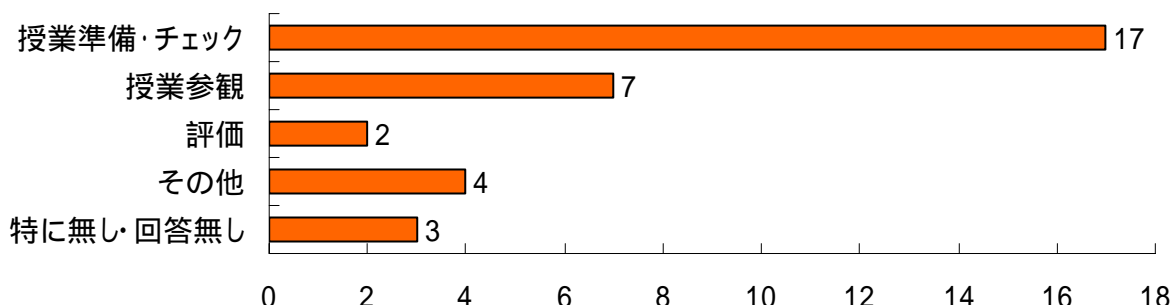
回答なし

(工学研究科建設工学専攻(建築学科), 情報電子工学専攻, 経済学研究科経済学専攻, 法学研究科法律学専攻, 社会学研究科社会学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人文科学研究科日本史学専攻, 人間社会研究科)

問21. 教員への教育支援として、授業改善につながるような支援として必要なものを具体的に記述してください。 具体的な内容

学部

問21 (学部)



授業準備・チェック

- ・ 授業準備やアンケート集計等のアシスタントが必要 (文学部英文学科, 法学部, 文学部地理学科)
- ・ 96人収容程度以上の教室での拡声装置の設置 (文学部英文学科)
- ・ 学生欠席時の補完用プリント類のライブラリー (文学部英文学科)
- ・ レポートにおける盗用についての全学的注意喚起 (文学部英文学科)
- ・ 授業内試験 (特に語学) の定期試験との同一レベル化を確保するための監督体制 (文学部英文学科)
- ・ なるべく早期に受講名簿を電子媒体で送ってもらいたい (文学部心理学科)
- ・ 授業支援システムや学生への提示方法の支援 (工学部物質化学科, 市ヶ谷地区教養教育運営協議会)
- ・ いろいろなツール等の使用などを支援する組織が必要 (情報科学部)
- ・ 授業工夫のバリエーションの紹介 (キャリアデザイン学部)
- ・ 講義状況の撮影, チェックを自分で行えるようにしてほしい (工学部都市環境デザイン工学科)
- ・ 講義で用いる資料や教材作成, 講義練習のためのマルチメディア化された教材準備室 (経済学部)
- ・ 授業の出欠取りの自動化 (工学部生命機能学科)
- ・ 大学の施設設備面での充実 (工学部システムデザイン学科)
- ・ 私語対策 (経営学部)

授業参観

- ・ 授業参観の活用 (文学部日本文学科, 工学部情報電気電子工学科, 経営工学科, 人間環境学部, 現代福祉学部)
- ・ 大学教員によるデモ授業だけでなく, 外部教員による教育手法の紹介 (工学部機械工学科)
- ・ 講義状況を撮影して優秀な授業は誰でも閲覧できればよい (工学部都市環境デザイン工学科)

評価

- ・ 教員・学生双方にとって, 簡便かつ効果的な評価方法 (キャリアデザイン学部)
- ・ 教員の評価に関し, 研究面の評価だけでなく, 教育面の評価を加えること (デザイン工学部)

その他

- ・ 授業・研究以外の仕事の増加を抑え, さらに軽減させること (文学部哲学科)
- ・ 体育の教員は, 学生とのコミュニケーション手段を模索している (市ヶ谷地区教養教育運営協議会)
- ・ 教員間での情報・意見交換することのできる時間的余裕 (社会学部)
- ・ 学生と教員とのセッションの企画 (文学部史学科)

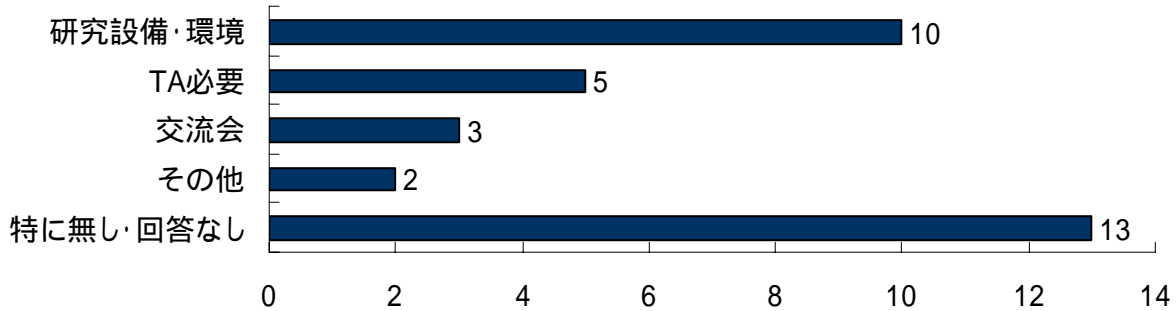
特になし・回答なし

- ・ 特になし (工学部電子情報学科, 国際文化学部)

- ・ 回答なし (工学部建築学科)

大学院

問21 (大学院)



研究設備・環境

- ・ 学生の研究発表に役立つ設備の一層の充実 (人文科学研究科英文学専攻)
- ・ 学生の研究に役立つ reading list の作成 (人文科学研究科英文学専攻)
- ・ 受講名簿を電子媒体で送ってもらいたい (人文科学研究科心理学専攻)
- ・ 大学院生が勉強できる場所が少ない (システムデザイン研究科システムデザイン専攻)
- ・ 研究教育費等の経済的支援 (経済学研究科経済学専攻, 人間社会研究科)
- ・ スタッフ・教室の補充 (法務研究科法務専攻)
- ・ 図書館資料の充実 (法務研究科法務専攻)
- ・ 事務関連の対応窓口の改善 (法務研究科法務専攻)
- ・ インターネットを利用した学習向上の方策 (I.M.研究科アカウンティング専攻)

TA必要

- ・ TAが必要 (政治学研究科政治学専攻, 工学研究科電気工学専攻, 建設工学専攻 (都市環境デザイン工学領域), 人文科学研究科日本文学専攻, 地理学専攻)

交流会

- ・ 学生の成果発表の際に他教員が参加し, 意見を述べる機会をなるべく多く設定することが重要 (工学研究科建設工学専攻 (建築学領域))
- ・ 外から研究者を呼んで, 交流会 (会議) を開いているが, 他の研究科にも公開して交流を深めたい (システムデザイン研究科システムデザイン専攻)
- ・ 院生と学部生との交流会が必要 (人文科学研究科地理学専攻)

その他

- ・ 在籍大学院生ばかりでなく, 受験を予定している者まで含めて, 科目やコース, 魅力的な分野等の調査を行うことができれば, カリキュラム改革上の参考になると思われる (人文科学研究科哲学専攻)
- ・ 職員の意識改革が必要 (I.M.研究科I.M.専攻)

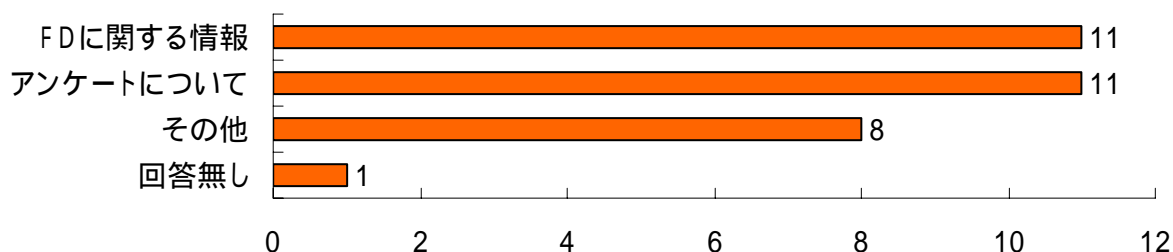
特になし・回答なし

- ・ 特になし (経営学研究科経営学専攻, キャリアデザイン学専攻, 工学研究科システム工学専攻 (経営系), (システム制御系), 物質化学専攻, 情報電子工学専攻)
- ・ 回答なし (国際文化研究科国際文化専攻, 工学研究科機械工学専攻, 法学研究科法律学専攻, 社会学研究科社会学専攻, 政策科学研究科政策科学専攻, 環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻, 人文科学研究科日本史学専攻)

問22.「FD推進センター」の活動として、あるいは法政大学全体の「FD」として特に期待することやご意見・ご要望などを自由にお書きください。

学部

問22 (学部)



FDに関する情報

- ・ 「FD推進センター」が目指す大学教育の中の「授業スタイル」を明示してほしい(工学部機械工学科)
- ・ メンバーの人選も積極的にFDに取り組んでいる方に頼むべきだ(工学部都市環境デザイン工学科)
- ・ 他私大と「FD」への取り組みについて情報を共有し紹介して欲しい(国際文化学部, 現代福祉学部)
- ・ 保護者も含めたFDを考える必要がある(情報科学部)
- ・ FDの窓口の分かりにくさを感じる(キャリアデザイン学部)
- ・ 分科会の開催等を通して、問題意識の共有を図っていききたい(市ヶ谷地区教養教育運営協議会)
- ・ FDの位置づけを明確にして欲しい(工学部システムデザイン学科)
- ・ FD推進センターに期待している(経営学部)
- ・ キャンパスごとのFD活動の交流を行いたい(社会学部)
- ・ 各教員の創意工夫を促し個性的なFDに関する情報交流が盛んになることが望ましい(人間環境学部)

アンケートについて

- ・ アンケート内容の妥当性や信頼性が必ずしも定かではない(文学部哲学科, 工学部経営工学科, 情報科学部, 工学部生命機能学科, 文学部日本文学科)
- ・ 教員の側の学生に対する要望については、センターはどう対応されるのか(文学部哲学科)
- ・ アンケートに対して学生にはかなり拒絶感が見受けられる(文学部日本文学科, 工学部電子情報学科)
- ・ アンケート実施の時間の工夫(授業時間外)をして欲しい(文学部日本文学科)
- ・ 自由記述欄の言葉が厳しかったりセクハラにあたりたりする場合があるため配慮が必要である(文学部史学科)
- ・ アンケート結果の活用方や事例を教えて欲しい(経済学部)

その他

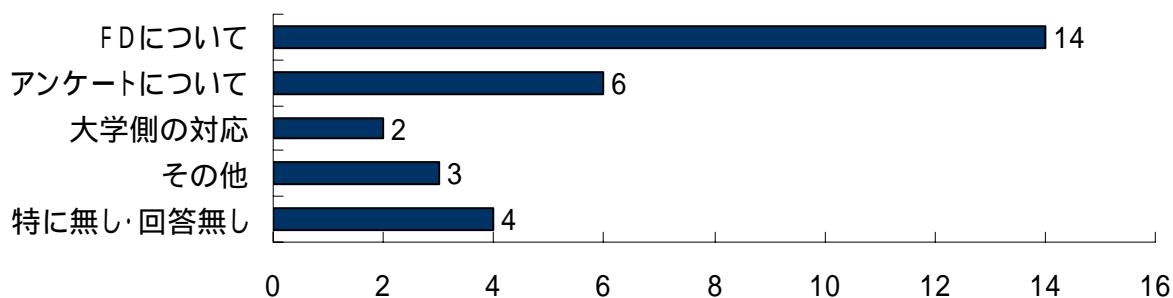
- ・ 制度の目的や方針の理解のため、種々の制度を構想の段階から提示して欲しい(文学部英文学科)
- ・ 大学側としても、教育・学習活動に対して支援を行ってほしい(文学部心理学科)
- ・ 体験学習的な「初等教育」プログラムも検討して欲しい(工学部機械工学科, 情報電気電子工学科)
- ・ 学生にもインセンティブを与えるような仕組みも考えて欲しい(工学部情報電気電子工学科)
- ・ 学生や教員にとって望ましい環境の確保が大事だが、物理的なスペースの問題としてゼミ生や大学院生の居場所が不足している(デザイン工学部)
- ・ 教員にとってプラスになることがあれば積極性もでる(法学部)
- ・ TAを導入して欲しい(文学部地理学科)

回答なし

(工学部建築学科)

大学院

問22 (大学院)



FD について

- ・ FD 義務化をめぐる文科省の動向，大学院設置基準の変更点等，研究科教授会でレクチャーして欲しい（*工学研究科機械工学専攻，物質化学専攻*）
- ・ 他大学での取り組み例を教示してほしい（*工学研究科機械工学専攻，人間社会研究科*）
- ・ FD を行うのであれば，費用と効用なども勘案しながら実効性のあるようにすることが重要である（*工学研究科システム工学専攻（経営系），（システム制御系），建設工学専攻（建築学領域）*）
- ・ 大学院の FD が義務化されても，まだまとまった対応はしていない（*I.M. 研究科 I.M. 専攻*）
- ・ 今後勉強していきたい（*経済学研究科経済学専攻*）
- ・ FD 活動に関して教員間に温度差があり，大学院は余分という意識もある（*社会学研究科社会学専攻*）
- ・ アンケートの実施の他に具体的な FD 活動がイメージしにくい（*人文科学研究科日本文学専攻*）
- ・ 大学院で FD をどのように実施したらよいか分からない（*人文科学研究科日本史学専攻，地理学専攻*）
- ・ 今後も様々な点からの情報を提供して欲しい（*I.M. 研究科アカウンティング専攻*）

アンケートについて

- ・ 少人数の大学院は学部とは性格が違うので，それに見合ったアンケート実施することが必要（*国際文化研究科国際文化専攻，工学研究科建設工学専攻（都市環境デザイン工学領域），工学研究科情報電子工学専攻，環境マネジメント研究科環境マネジメント専攻，人文科学研究科日本史学専攻*）
- ・ 学生にアンケートをとり，意見を聞くのは一方向的であり学生と教員との対話の工夫が必要（*人文科学研究科英文学専攻*）

大学側の対応

- ・ 個別の教員評価だけに集中するのではなく，組織的な対応や制度的なサポートに目を向けつつあるのはよいことであり，ぜひそうした方向で進めるべきである（*政治学研究科政治学専攻*）
- ・ 教員や学科・専攻側の努力のみでなく，大学側としても，教育・学習活動に対して支援を行ってほしい（*人文科学研究科心理学専攻*）

その他

- ・ 博士課程の学生の希望を大学(院)全体として捕捉していないのはまずい（*経営学研究科経営学専攻*）
- ・ 「研究者養成」という従来型の大学院像とは異なる大学院のあり方について，FD センター，キャリアセンター，大学院研究科間で検討する機会があってもよいと思う（*人文科学研究科哲学専攻*）
- ・ 良い教育をした人が報われる仕組みをつくりたい（*政策科学研究科政策科学専攻*）

特になし・回答なし

- ・ 特になし（*法学研究科法律学専攻*）
- ・ 回答なし（*経営学研究科キャリアデザイン学専攻，システムデザイン研究科システムデザイン専攻，法務研究科法務専攻*）

2007 年度実施
F D活動に関するヒアリング報告書

発 行	2008 年 3 月 22 日
編 集	法政大学 FD 推進センター
